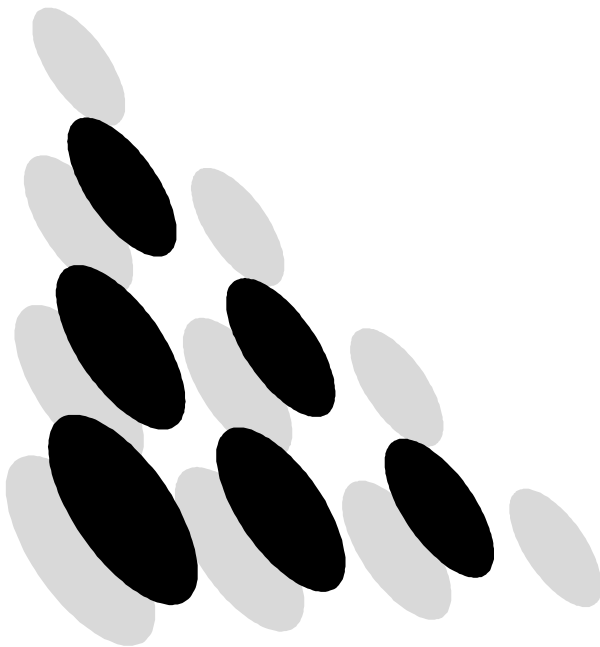


GRANPOWER5000 シリーズ

ServerWizard V1.0 ソフトウェアガイド



FUJITSU

はじめに

この度は、弊社 GRANPOWER5000 シリーズをお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

ServerWizard V1.0 は、お求めいただいた GRANPOWER5000 に対して、CD-ROM に格納されている機種情報ファイルに従って、オプションカードの確認とハードディスクの初期化および区画設定を行い、インストール可能なドライバをインストールした後、Microsoft® Windows NT® Server Network Operating System Version 4.0 システム、または Microsoft® BackOffice® Small Business Server と添付サーバアプリケーションプログラムをインストールする「NT サーバ導入支援プログラム」です。

本書では、ServerWizard V1.0 の機能や詳細な操作について説明しています。ServerWizard V1.0 を使いこなす際にお役立てください。

なお、ServerWizard V1.0 をお使いになる前に、本体のマニュアルをよくお読みになり、サーバを使用できる状態にしておいてください。

1998 年 10 月

Microsoft, Windows, WindowsNT, BackOffice, MS-DOS は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LTD. 1998

■マニュアルの読みかた

ServerWizard V1.0 には、2 冊のマニュアルが添付されています。
それぞれのマニュアルは、以下のようにお使いください。

『ServerWizard でインストールしよう！』

WindowsNT4.0 サーバのインストールタイプをお買い求めいただいて、最初にサーバを導入したいときにお使いください。マニュアルを見開きにして、見ながら操作を行えます。
ServerWizard でのサーバ導入の流れが分かるようになっています。

『ServerWizard V1.0 ソフトウェアガイド』

ServerWizard V1.0 の機能を知りたいとき、詳しい操作方法や項目の設定のしかたを知りたいときにお読みください。サーバ情報の設定以外に、クライアントの情報を設定したり、導入後の運用などにも説明しています。

また、ServerWizard V1.0 をお使いになる前に、必ず本体に添付のマニュアルをお読みになり、本体装置の準備と設置を正しく行ってください。本体に関して詳しくは本体添付マニュアルを参照してください。オプションカードなどについては、それぞれのマニュアルを参照してください。

■本書の読みかた

本書は以下のように構成されています。

章・タイトル	内 容
第 1 章 ServerWizard V1.0 の概要	ServerWizard V1.0 ではどのようにサーバ導入をサポートしているのか、概要の説明と、ServerWizard V1.0 の各機能について紹介しています。また、運用上の留意事項も記載していますので、最初に必ずお読みください。
第 2 章 DesignMagic	サーバ導入前に、サーバの設定やクライアントの設定などを行う DesignMagic の操作について詳しく説明しています。DesignMagic をお使いになるときにお読みください。
第 3 章 ServerWizard	ServerWizard の操作について詳しく説明しています。ServerWizard をお使いになり、サーバを導入するときにお読みください。また、バックアップディスクの作成についても説明しています。
第 4 章 WizardConsole	サーバ導入後の設定変更などを行う WizardConsole の操作について詳しく説明しています。 WizardConsole をお使いになるときにお読みください。また、WizardConsole では、クライアントをセットアップするためのクライアント導入フロッピーディスクを作成します。
第 5 章 ClientWizard	クライアントのセットアップを行う ClientWizard の操作について詳しく説明しています。 ClientWizard をお使いになるときにお読みください。

章・タイトル	内 容
付録	以下の機能、操作などの説明を記載しています。必要に応じてお読みください。 付録 A：こんなときは？(Q&A) 付録 B：クライアントセットアップ機能 付録 C：添付アプリケーションのインストール 付録 D： SystemWalker/LiveHelp® Client V4.0

■表記の約束

本書では、以下の略称を使用しています。

- Microsoft® Windows®95 Operating System または Microsoft® Windows®98 Operating System → Windows95/98
- Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version4.0 → WindowsNT WS 4.0
- Microsoft® Windows NT® Server Network Operating System Version4.0 → WindowsNT
- Microsoft® BackOffice® Small Bussiness Server → SBS
- Intel LANDesk® ServerManager → LDSM
- Windows NT Server4.0 インストールタイプ および Small Business Server4.0 インストールタイプ → インストールタイプ
- 出荷時に OS がインストールされている状態 → プレインストール

■ソフトウェア説明書について

本書で説明する事項以外で、参考となる情報や留意事項は、「ソフトウェア説明書」に記載されています。

ServerWizard V1.0 をお使いになる前に、必ずお読みください。

「ソフトウェア説明書」は、「README.TXT」のファイル名で、ServerWizard V1.0 の CD-ROM のルートディレクトリに登録されています。

また、サーバで ServerWizard を起動し、[ソフトウェア説明書] ボタンを選択しても表示されます。

■ServerWizard V1.0 に関する最新情報について

ServerWizard V1.0 に関する最新の情報は、インターネットの弊社ホームページ(GRANPOWER / OPEN WORLD)でご確認ください。

目 次

第 1 章 ServerWizard V1.0 の概要	1
1.1 ServerWizard V1.0 とは	1
1.2 ServerWizard V1.0 の各機能	3
1.2.1 DesignMagic	3
1.2.2 ServerWizard	3
1.2.3 WizardConsole	4
1.2.4 ClientWizard	4
1.2.5 各種情報ファイル	5
1.3 必要なシステム	6
1.3.1 サーバ側	6
1.3.2 クライアント側	6
1.3.3 ネットワーク環境	6
1.4 ServerWizard を起動する前に	7
1.4.1 サーバ導入前の準備	7
1.4.2 内蔵オプション取り付け時の注意	7
1.4.3 BIOS セットアップユーティリティ	7
1.4.4 SCSI コンフィグレーションユーティリティ	7
1.4.5 コンフィグレーションユーティリティ	7
1.5 ServerWizard V1.0 でのセットアップ手順	8
第 2 章 DesignMagic	11
2.1 DesignMagic の起動	11
2.2 サーバ設計	13
2.3 クライアントシステム設計	21
2.4 クライアントセットアップ	31
2.4.1 セットアップ資源情報（アプリケーション）を登録する	34
2.4.2 セットアップ資源情報（ファイル）を登録する	38
2.4.3 セットアップ資源情報（実行コマンド）を登録する	40
2.5 設定情報の確認、登録	42

3.1	サーバ導入前の準備	43
3.2	ServerWizard の起動	43
3.3	サーバのセットアップ（新規）	45
3.4	サーバのセットアップ（読み込み）	54
3.5	サーバインストール後の処理	57
3.5.1	インストール後の状態	57
3.5.2	WindowsNT セットアップ後の処理	57
3.5.3	SBS 4.0 インストール後の注意事項	58
3.5.4	管理ソフトウェアのインストール（アレイタイプのみ）	58
3.5.5	WindowsNT Server の再インストール	58
3.6	バックアップディスクの作成	59

4.1	WizardConsole の起動	61
4.2	クライアント情報の追加／変更	62
4.2.1	ユーザ情報の追加／変更	63
4.2.2	グループ情報の追加／変更	65
4.2.3	共有資源フォルダの追加／変更	66
4.2.4	クライアントシステム設計	68
4.3	クライアントコンピュータの追加／変更	72
4.4	クライアント導入フロッピーの作成	75
4.5	サーバ情報ファイルの作成	76
4.6	クライアントセットアップ	77
4.6.1	クライアントセットアップ情報の設定	78
4.6.2	セットアップ資源を取り込む	80
4.6.3	セットアップ指示の編集	80
4.7	クライアントセットアップ動作環境	83
4.8	WizardConsole のアンインストール	84

5.1 セットアップに必要な準備	85
5.1.1 サーバ側の準備	85
5.1.2 クライアント側の準備	85
5.1.3 ネットワーク環境の準備	86
5.2 クライアントコンピュータのセットアップ	86

付録 A こんなときは (Q&A)	91
Q. モデムを追加するには?	91
Q. プリンタを追加するには?	92
Q. 区画(パーティション)はどのように作成されますか?	94
Q. RAID を構築するときの注意点は?	95
Q. スーパーフロッピー形式の光磁気ディスクは使用できますか?	96
付録 B クライアントセットアップ機能について	97
B-1 クライアントセットアップ機能とは	97
B-2 クライアントセットアップのインストール	97
B-3 クライアントに資源をインストールするための設計	97
B-4 クライアントコンピュータの追加/変更時	98
B-5 留意事項	99
付録 C 添付アプリケーションのインストール	102
C-1 DSNAP	102
C-2 PROBEPRO	102
C-3 Power MANagement for Windows 電源制御エージェント	103
C-4 LiveHelp	103
C-5 FM Advisor	104
付録 D SystemWalker/LiveHelp® Client V4.0	105
D-1 操作概要	105
D-2 その他の機能	107

第 1 章 ServerWizard V1.0 の概要

1.1 ServerWizard V1.0 とは

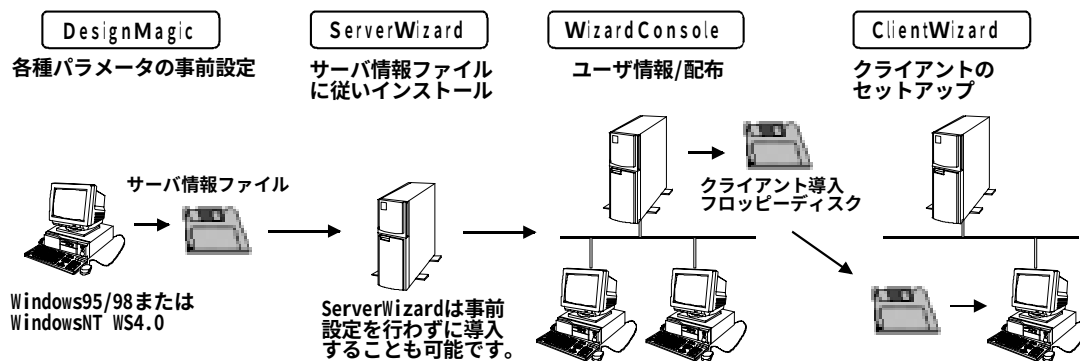
ServerWizard V1.0 では、これまでインストールしながら行っていた各種設定を事前に設定することで、インストール時の煩雑さを改善しています。また、セットアップに必要な情報を事前に設定し、フロッピーに登録しておくことで、専門知識がなくても、誰でもサーバのインストール、セットアップが簡単に行えるようになりました。

ServerWizard V1.0 では、サーバの導入だけではなく、サーバを使用するクライアントコンピュータの設定も事前に行うことができます。

しかも、設定したユーザやグループ、共有資源を 1 画面で全体を見ながら関連付けを行うことができます。サーバを使用するクライアントの設定が簡単に行えるのも大きな魅力のひとつです。

また、クライアントにインストールしたいアプリケーションやファイルなどの情報を事前に一括定義し、サーバにこれらの資源を取り込むことで、クライアントに自動的にアプリケーションやファイルをインストールすることができます。

そして、これらサーバに関連した情報は、サーバ情報ファイルとしてフロッピーディスクに登録されます。このフロッピーディスクを使用することで、同じ条件のサーバを構築することができます。



ServerWizard でインストールした後は・・・

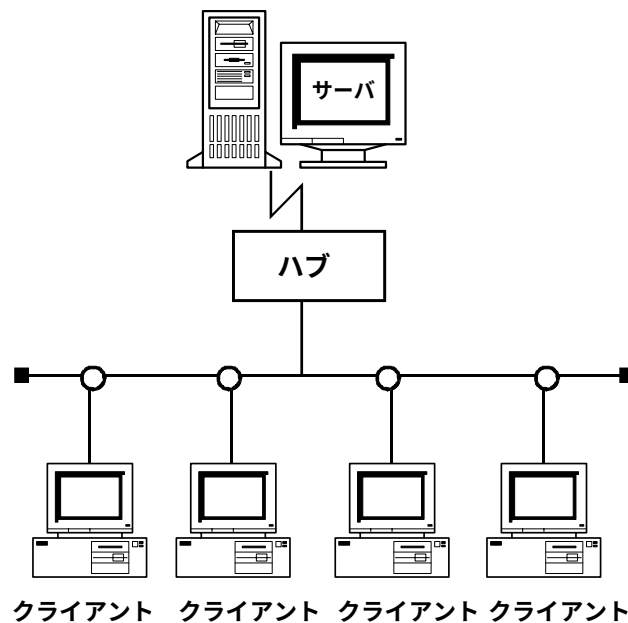
インストール後のクライアントの追加、グループの追加など、サーバ運用に関する変更は、WizardConsole で行えます。

現在のサーバに設定（接続）されている状況を画面に表示し、追加、変更を行います。

設定方法は DesignMagic と同じ操作です。

ネットワーク構築もできます！

ServerWizard では、サーバの導入時に WindowsNT のワークグループ、ドメイン等のネットワークモデルでネットワークを構築することができます。サーバをプライマリドメインコントローラとしてネットワークの設計を行う場合、クライアントの設定およびセットアップや、アプリケーションのセットアップまで簡単に行えます。



WindowsNT で構築できるネットワークドメインの詳細については WindowsNT のマニュアルを参照してください。

1.2 ServerWizard V1.0 の各機能

ServerWizard V1.0 には、以下の4つの機能が用意されています。

- ・ DesignMagic—事前設定—
- ・ ServerWizard—サーバのセットアップ—
- ・ WizardConsole—導入後の設定—
- ・ ClientWizard—クライアントのセットアップ—

ServerWizard V1.0 の優れた各機能について、ご紹介します。

1.2.1 DesignMagic

■DesignMagic で簡単セットアップ情報づくり

DesignMagic では、サーバを導入する前に、サーバのセットアップ情報や、サーバを使用するクライアントの情報、サーバに設定するグループや共有フォルダの設定、クライアントにインストールする資源の設計が行えます。

DesignMagic は、サーバ機ではなく、Windows95/98 または、WindowsNT WS 4.0 が動作する環境で操作を行うので、サーバを起動せずに、自分のマシンで操作することが可能です。

また、設定した情報は、サーバ情報ファイルとしてフロッピーディスクに登録します。すでに登録済みのサーバ情報ファイルを読み込んで、設定情報を修正することもできます。

サーバ情報ファイルがあれば、専門知識がなくてもサーバのセットアップ、インストールを簡単に行うことができます。

■ネットワーク環境の構築も

設定したユーザやグループ、共有資源は、一覧形式で表示して関連付けの設定を行います。わかりやすく簡単に設定内容を決めることができます。

■DesignMagic を使うために必要な環境

- ・ Windows95/98 または、WindowsNT WS 4.0 が動作するマシン（CD-ROM ドライブ必須）
- ・ ServerWizard の CD-ROM
- ・ 新しいフロッピーディスク 1 枚（サーバ情報ファイル登録用）

1.2.2 ServerWizard

■ServerWizard でセットアップを始めよう

ServerWizard を使用してセットアップすることにより、以下のメリットがあります。

- ・ オプションカードの搭載位置を間違えたことなどによるインストールミスが防げます。
- ・ 自動的にハードウェアの最新ドライバや OS のサービスパックなどが正常にインストールできます。
- ・ メッセージに従って操作していただくだけで簡単にインストールできます。
- ・ セットアップの途中で指定内容を確認する必要がなく、長い作業時間を有効に活用できます。

■ServerWizard を使うために必要な環境

- ・ ご使用になるサーバ機
- ・ ネットワーク環境
- ・ ServerWizard の CD-ROM
- ・ セットアップする OS の CD-ROM
- ・ サービスパックの CD-ROM
- ・ サーバ情報ファイルが登録されているフロッピーディスク、またはサーバ情報ファイルを作成するための未使用のフロッピーディスク（1 枚）
- ・ 修復ディスクを作成するための未使用のフロッピーディスク（1 枚）

1.2.3 WizardConsole

■インストール後は WizardConsole におまかせ

インストールが終了し、サーバを運用していくうちに、サーバを利用するユーザが増えたり、新しいグループを追加する必要や、設定してあった共有資源を使用しなくなる、などの変更が発生します。そんなときは、WizardConsole で追加、変更、削除を行います。

また、クライアントを追加する場合や追加したクライアントに DesignMagic で定義した資源をインストールしたい場合にも、WizardConsole で操作を行います。

WizardConsole は、ServerWizard でサーバをプライマリドメインコントローラとしてインストールすると、自動的にインストールされます。使用するときは、「スタート」メニューから [プログラム] - [ServerWizard] の [WizardConsole] を起動します。

DesignMagic 同様の操作で、処理を進めることができます。

変更が発生した情報については、クライアントシステム設計の関連付け画面で、それぞれの関連付けを修正、追加することができます。

また、WizardConsole では、使用中の設定情報が表示され、修正した内容が即座に反映されます。

■クライアント導入フロッピーの作成

WizardConsole では、ServerWizard で作成したサーバに接続するために必要な情報を登録したクライアント導入フロッピーを作成します。1 枚のフロッピーディスクに全クライアントの情報を登録し、順番にクライアントをセットアップしていく方法と、クライアントごとに 1 枚のフロッピーディスクを作成し、複数のクライアントで同時にセットアップを行う方法があります。

■WizardConsole を使うために必要な環境

- ・ 設定を変更したいサーバ機
- ・ ネットワーク環境
- ・ クライアント導入フロッピーを作成するための未使用フロッピーディスク（必要枚数分）

1.2.4 ClientWizard

■クライアントのセットアップもあつという間

WizardConsole でクライアント導入フロッピーディスクを作成したあとは、各クライアントにフロッピーディスクをセットして、ClientWizard によりセットアップを行います。

クライアント導入フロッピーディスクに複数のクライアントが登録されている場合は、自分が使用するコンピュータ名を選択して、あとは [OK] をクリックするだけ。登録されている情報が自動的にセットアップされます。

セットアップが終了すると、クライアント導入フロッピーディスクからセットアップしたコンピュータの情報が削除されるので、間違えて同じコンピュータ名でセットアップされることもありません。

■同一アプリケーション、ファイルの自動インストール

クライアントセットアップ機能を使うことにより、サーバ上に取り込まれたアプリケーションやファイルなどの資源をクライアントに自動的にインストールできます。これにより、複数のクライアントに同一アプリケーションのインストール、同一ファイルのインストールが簡単にできます。

■ClientWizard を使うために必要な環境

- ・ Windows95/98 または、WindowsNT WS 4.0 が動作する環境
- ・ ネットワーク環境
- ・ クライアント導入フロッピーディスク

1.2.5 各種情報ファイル

ServerWizard では、機種情報ファイル、サーバ情報ファイル、クライアント情報ファイルの3つのファイルを使用します。

■機種情報ファイル（.MPD）

機種情報には、本体装置固有のハードウェア情報、OS 情報、インストールアプリケーション情報が記述されています。ServerWizard V1.0 の CD-ROM には、あらかじめ機種情報ファイルが登録されていますが、ハードウェア情報が更新されたり、追加された場合には、最新の機種情報でサーバのセットアップを行ってください。

最新の機種情報は、インターネットの弊社ホームページ（GRANPOWER/OPEN WORLD）に掲載されています。内容を確認の上、フロッピーディスクなどにダウンロードしてご使用ください。

ファイル名は、8 文字以内、拡張子は必ず".MPD"にしてください。

■サーバ情報ファイル（.SPD）

サーバ情報ファイルには、DesignMagic で設定したサーバをセットアップ、インストールするときに必要な情報およびクライアントの情報が登録されます。

ServerWizard でサーバを新規にセットアップするときに直接作成することもできます。ただし、この場合はサーバ設計情報のみとなります。

サーバ情報ファイルは、1 枚のフロッピーディスクに 1 ファイルのみの登録となります。

■クライアント情報ファイル（.CPD）

クライアントをセットアップするためのファイルです。ServerWizard でサーバをインストールしたあとに、WizardConsole 機能を使用して作成します。

クライアント情報ファイルを登録したフロッピーディスクを使用してクライアントをセットアップすることで、サーバを使用するためのクライアントのセットアップが自動的に行えます。また、あらかじめクライアントに配布するアプリケーションなどの資源が登録されている場合は、セットアップと同時にアプリケーションなどのインストールも自動的に行われます。

また、1 クライアントごとに 1 つのフロッピーディスクを作成した場合は、クライアント自身でセットアップが行えます。全クライアントを 1 つのフロッピーディスクに作成した場合は、順番にセットアップを行っていきます。

1.3 必要なシステム

操作を始める前に、あらかじめ以下の CD-ROM、またはフロッピーディスクをお手元にご用意ください。

1.3.1 サーバ側

■ハードウェア

お買い上げいただいた GRANPOWER5000 シリーズ本体

■ソフトウェア

本体に標準添付の以下の CD-ROM、およびフロッピーディスク

- ・使用する OS（WindowsNT または SBS）の CD-ROM
 - ・ServerWizard の CD-ROM
 - ・ServerWizard V1.0 のフロッピーディスク（サーバ情報ファイル登録用）
 - ・WindowsNT Service Pack または WindowsNT OptionPack の CD-ROM
 - ・LDSM の CD-ROM
- その他オプションカードに添付されているドライバのフロッピーディスク

1.3.2 クライアント側

■ハードウェア

- ・当社 FMV シリーズ等のパーソナルコンピュータ本体
- ・LAN カード

■ソフトウェア

- ・使用する OS（Windows95/98、WindowsNT WS 4.0）の CD-ROM
- ・クライアント導入フロッピーディスク

1.3.3 ネットワーク環境

サーバのインストール後は、LAN 等ご使用になる接続形態に合わせてクライアントコンピュータを接続してください。

■ハードウェア

必要に応じて以下のハードウェアをご用意ください。

- ・ハブユニット、ルータ
- ・LAN ケーブル（必要本数分）

1.4 ServerWizard を起動する前に

ServerWizard をお使いになる前に、必ず本体マニュアルを良くお読みになり、以下の事項に留意しサーバの準備を行ってください。

1.4.1 サーバ導入前の準備

- ・梱包物／内容物を確認する
- ・設置場所を確認する
- ・本体マニュアルを読む

1.4.2 内蔵オプション取り付け時の注意

インストールタイプ、および ServerWizard を使用して OS をインストールする場合は、内蔵オプションおよび周辺機器を使用する際に、以下に注意してください。これらの注意を守っていただかない場合は、正常にインストールが行われません。

また、本体マニュアルを参照し、正しいスロットにオプションカードを取り付けてください。

▼注意▼

- ・オプションの SCSI カードを搭載して、外部 SCSI オプション装置（ハードディスクキャビネット、光磁気ディスクなど）を増設する場合は、OS のインストールおよびセットアップ終了後、電源を切断して接続を行ってください。
- ・OS のインストールを行うハードディスクは、自動的に選択されるため、必ず OS をインストールするハードディスクのみを接続してください。
- ・オプションの LAN カードを搭載する場合は、OS のインストールおよびセットアップ終了後、電源を切断してカードを搭載してください。

1.4.3 BIOS セットアップユーティリティ

本体マニュアルを参照し、BIOS セットアップユーティリティにより以下の設定を行ってください。

- ・PCI カードの設定（PCI カードを使用する場合）
- ・パスワードの設定（パスワードを設定する場合）
- ・サーバモニタモジュールの設定（サーバモニタモジュールを使用できる機種で、ご使用になる場合）

1.4.4 SCSI コンフィグレーションユーティリティ

ご使用の機種によっては、SCSI コンフィグレーションユーティリティの設定および確認を行う必要があります。

本体マニュアルを参照してください。

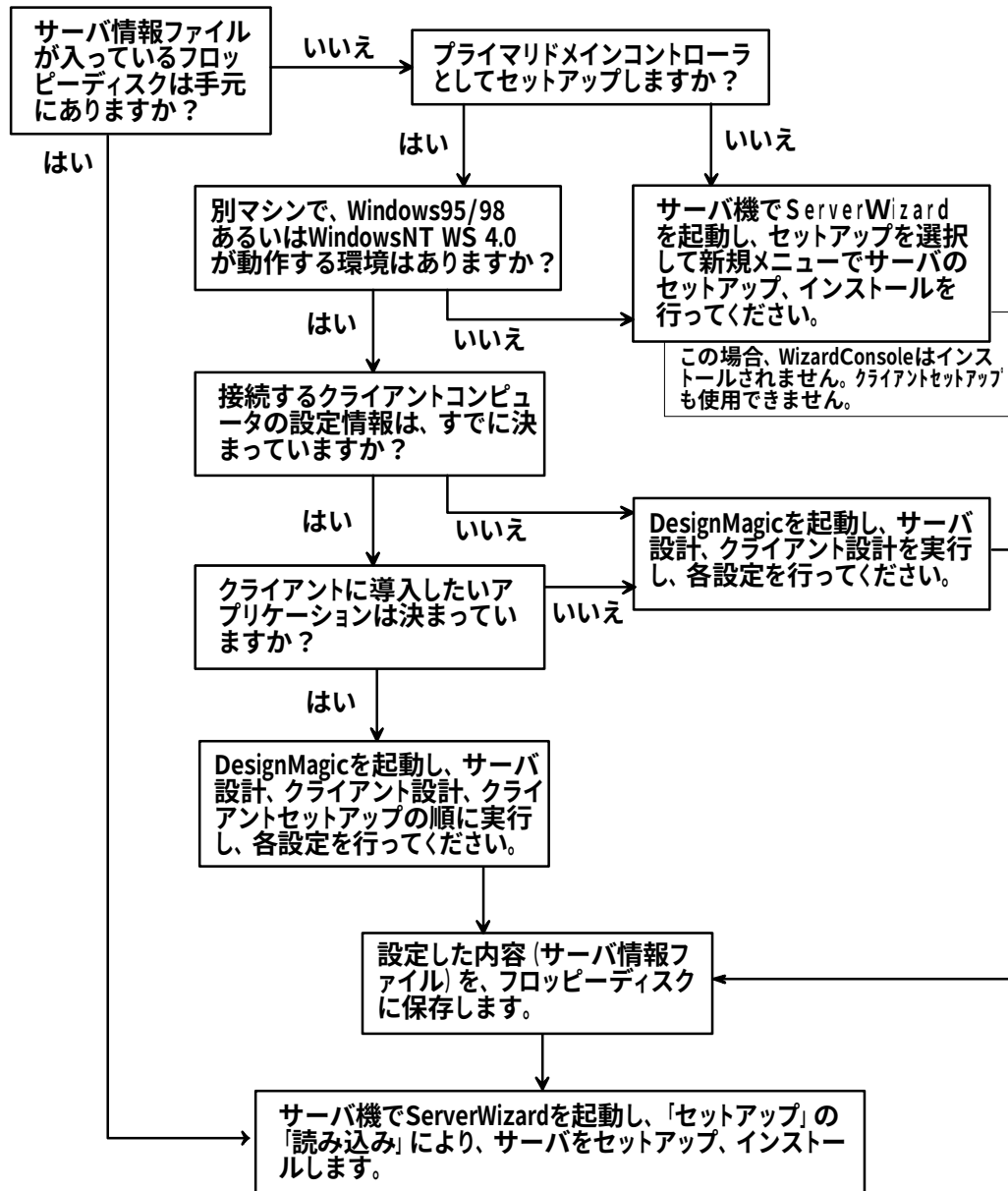
1.4.5 コンフィグレーションユーティリティ

ご使用の機種により、オプションカードを使用する際に、ISA コンフィグレーションユーティリティ、または SSU（システムセットアップユーティリティ）を実行しておく必要があります。詳しくは本体マニュアルを参照してください。

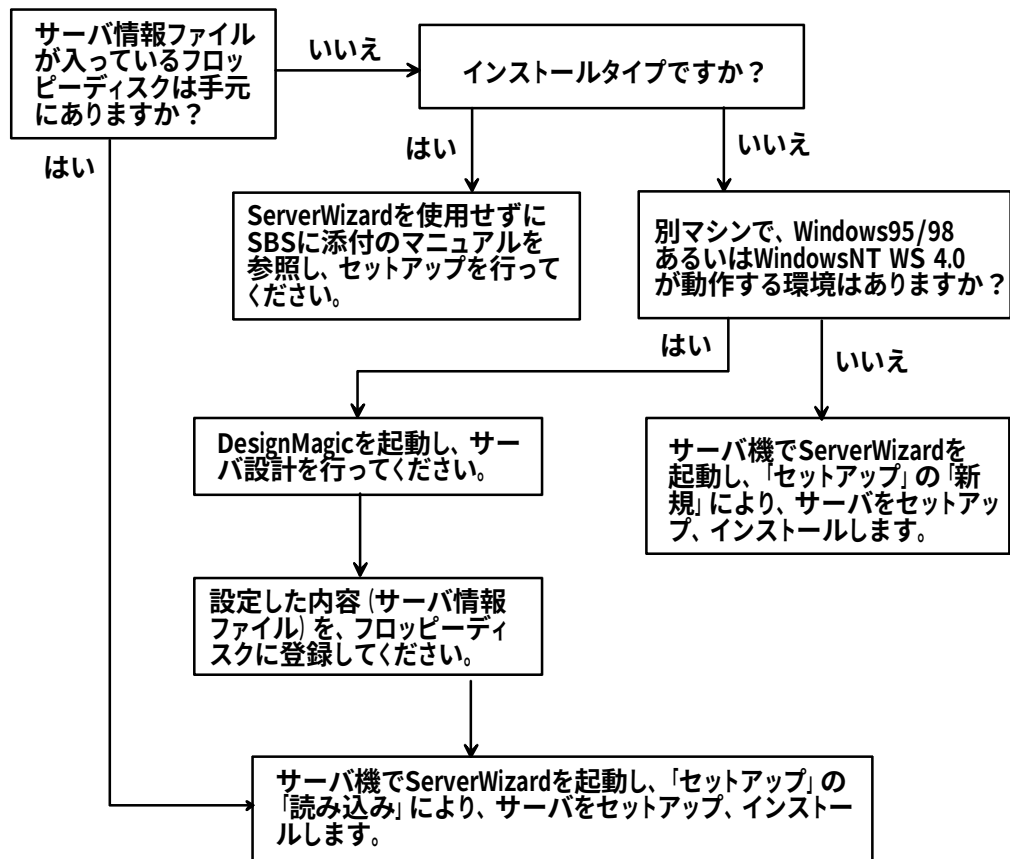
1.5 ServerWizard V1.0 でのセットアップ手順

ServerWizard V1.0 でサーバをセットアップする場合、次の条件に従って適切な方法を選択してください。

■WindowsNT の場合



■SBS の場合



▼注意▼

SBS の場合には、添付アプリケーションや WizardConsole はインストールされません。

第 2 章 DesignMagic

DesignMagic では、サーバ、クライアントのセットアップ情報を事前に設定し、サーバ情報ファイルを作成します。

2.1 DesignMagic の起動

■起動

DesignMagic は、Windows95/98 または WindowsNT WS 4.0 以上がインストールされているマシンで操作を行います。

他のアプリケーションなどが起動されている場合は、終了しておいてください。

- 1) ServerWizard の CD-ROM をセットします。

DesignMagic が起動します。



▼注意▼

- DesignMagic を終了するまで、CD-ROM は取り出さないでください。
- CD-ROM をセットしても DesignMagic が起動しない場合は、以下の操作を行ってください。※CD-ROM ドライブを E:として説明します。
 - 1) [スタート] の [ファイル名を指定して実行] をクリックします。
ファイル名を指定して実行画面が表示されます。
 - 2) 「名前」に、次のように入力し、[OK] をクリックします。
E:¥SVWIZARD¥DMAGIC¥DMAGIC.EXE

OnePoint

DesignMagic での設定を全て終了する前に DesignMagic を終了してしまった場合は、CD-ROM をセットし直すか、エクスプローラなどで CD-ROM ドライブを右クリックし、[自動再生] をクリックしてください。

■ DesignMagic 操作の流れ

DesignMagic では、次の順番で操作を行います。

- [サーバ設計] : サーバのセットアップ、インストール情報を設定します。
- [クライアントシステム設計]
 - : クライアントのセットアップ情報を設定します。
 - ただし、「クライアントシステム設計」は、サーバ設計のサーバの種別で「プライマリドメインコントローラ」を選択したときのみ有効になります。
- [クライアントセットアップ]
 - : サーバを利用するクライアントに対して、同一アプリケーション、ファイルなどをインストールする場合の設定を行います。
 - ただし、[クライアントセットアップ] は、[クライアントシステム設計] でクライアントコンピュータの登録を行ったときのみ有効になります。
- [終了] : 設定した情報を、サーバ情報ファイルとしてフロッピーディスクに登録し、DesignMagic を終了します。

ただし、サーバ設計で選択したインストール OS の種別によっては、「クライアント設計」、「クライアントセットアップ」の操作が行えない場合があります。

OS 種別	サーバ設計	クライアントシステム設計	クライアントセットアップ°
WindowsNT 新規インストール	○	○	○
WindowsNT プレインストール	○	○	○
SBS 新規インストール	△ (一部)	×	×
SBS プレインストール	×	×	×

SSP モデルは WindowsNT 新規と同様の扱いになります。

▼注意▼

[サーバ設計] でサーバ種別を「プライマリドメインコントローラ」にした場合のみ、WizardConsole およびクライアントセットアップ機能がインストールされます。

■メニュー

【ファイル】メニュー

- [新規作成] : 新規にサーバ設計、クライアントシステム設計、クライアントセットアップを行います。新規作成を行うと、設定中の情報を初期状態に戻すことができます。
- [開く] : 既存のサーバ情報ファイルを選択し、設定を変更します。変更したファイルは上書き保存するか、別名で保存することで、新規にサーバ情報ファイルを作成できます。
- [別名で保存] : 現在設定中のサーバ情報ファイルを、別名で保存します。
- [プリンタの設定] : 使用するプリンタの設定を行います。
- [印刷] : サーバ設計、クライアントシステム設計、クライアントセットアップの設定内容を印刷します。印刷して設定内容を確認できます。
- [アプリケーションの終了] : DesignMagic を終了します。現在設定中の内容が保存されていない場合は、フロッピーディスクへサーバ情報ファイルの保存を確認する画面が表示されます。保存せずに終了する場合は「いいえ」をクリックしてください。

【ヘルプ】メニュー

- [トピックの検索] : DesignMagic のヘルプが表示されます。ヘルプには、各設定画面の説明が書かれています。必要に応じて参照してください。
- [バージョン情報] : DesignMagic のバージョン情報が表示されます。

2.2 サーバ設計

- 1) 「サーバ設計」をクリックします。
サーバ設計画面が表示されます。



- 2) サーバにインストールする OS と、導入種別を指定します。

機種名 : 購入したサーバの機種名が表示されます。「機種情報ファイルの読み込み」を選択すると、ファイルを開く画面が表示され、機種情報ファイルを読み込むことができます。機種情報ファイルの拡張子は".MPD"です。
[詳細] ボタンをクリックすると、機種情報ファイルのバージョンレベル、作成日付等の詳細が表示されます。



[OK] をクリックするとサーバ設計画面に戻ります。

OnePoint

最新の機種情報ファイルは、弊社のインターネットサービス(GRANPOWER/OPEN WORLD)で提供しています。フロッピーディスクなどにダウンロードしてご利用ください。

導入種別 : サーバに OS がインストールされていない場合は「新規導入」を、OS がすでにインストールされている場合は「ブレイインストールモデル」を指定します。
再インストールの場合は、「新規導入」を指定してください。
導入 OS : サーバで使用する OS を指定します。「Microsoft® BackOffice® Small Business Server」を指定した場合は、ハードディスクの設定のみ行います。

OnePoint

ブレイインストールモデルでも、OS を再インストールする場合は、[新規導入]を選択してください。ハードディスクの初期化から実行します。

▼注意▼

ご使用になる「機種名」が正しく表示されていることを確認してください。
異なる機種を指定した場合は、正常にインストールが行われません。

- 3) [OK] をクリックします。
ハードディスクの設定画面が表示されます。



OnePoint

サーバ設計画面で導入種別で「プレインストールモデル」を指定した場合は、ハードディスクの設定画面は表示されません。手順 6) へ進んでください。

- 4) OS が起動する装置と、区画のサイズを指定します。
- ブートデバイス : OS が起動する装置を指定します。
 - SCSI/IDE を使用 : SCSI または IDE を使用する場合にクリックします。
 - RAID を使用 : RAID を使用する場合にクリックし、RAID の各項目を設定します。
 - 使用する RAID カード
 - : サーバで利用できる RAID カードの一覧が表示されます。使用する RAID カードを一覧から選択します。
 - RAID レベル
 - : RAID のレベルを指定します。
 - 台数
 - : サーバで使用するハードディスクの台数を指定します。
 - 実際に装着する台数（ホットスペアディスクを除く）を指定してください。
 - ホットスペアディスクを作成
 - : ホットスペアディスクを作成する場合はチェックします。
 - ホットスペアディスクを作成する場合、実際に装着するディスク台数は「台数」で指定したディスク+1 台となります。
 - たとえば、台数を 3 台指定しホットスペアディスクを作成する場合をチェックした場合は、サーバには必ず 4 台のハードディスクを装着してください。ハードディスクの台数について詳しくは『付録 A こんなときは (Q&A)』の『Q. RAID を構築するときの注意点は?』を参照してください。

パーティションサイズの設定

：選択したブートデバイスの区画の大きさを指定します。システム区画（C:ドライブ）とアプリケーション区画（D:ドライブ）を自動で設定するか、任意に設定するかを指定します。

システム区画（デフォルト 4096MB,NTFS）、アプリケーション区画（デフォルト 4096MB,NTFS）は合計で 8192MB までの区画を作成できます。作成されたアプリケーション区画には"Swapldrv"のボリュームラベルが設定されます。

自動設定：システム区画、アプリケーション区画がデフォルト値で設定されます。

手動設定：システム区画と、アプリケーション区画のサイズを任意に設定します。システム区画、アプリケーション区画を指定してください。ボリュームラベルが付きます。システム区画は 2048MB～4096MB、アプリケーション区画は 0MB～6144MB の範囲で指定します。

NTFS に変換する：システム区画のファイルシステムを NTFS に変換しない場合はチェックをはずします。

OnePoint

管理領域がある実際のサーバでは、区画は指定した容量より小さくなる場合があります。

また、指定した容量より小さなハードディスクが装着されていた場合、区画（D:ドライブ）が作成されなかったり、自動的にサイズを変更する場合があります。

アプリケーションドライブは、NTFS で初期化します。システムドライブに関しては、「NTFS に変換する」が指定されなかった場合は FAT で初期化します。

- 5) [次へ] をクリックします。
ユーザ情報の設定画面が表示されます。

OnePoint

サーバ設計画面で、導入 OS を「Microsoft® BackOffice® Small Business Server」に指定した場合は設定が終了します。手順 12) へ進んでください。

6) ユーザ情報を設定します。

- ユーザ情報 : OS をインストールする際のユーザ情報を設定します。
- ユーザ名 : 登録するユーザ名を半角 50 文字（全角 25 文字）以内で入力します。
- 組織名 : 登録する組織名を半角 50 文字（全角 25 文字）以内で入力します。
- プロダクト ID : プロダクト ID を入力します。ファーストステップガイドの表紙を確認してください。プロダクト ID と CD キーは、記載されている項目に合わせて、いずれかを入力します。
- CD キー : CD キーを入力します。CD-ROM ケースの裏を確認してください。
- クライアントライセンス : WindowsNT Server のクライアントのライセンス形態を指定します。「同時使用ユーザ数」を指定した場合は、契約に合わせて同時に使用するユーザ数を入力してください。
- コンピュータ情報 : サーバのコンピュータ情報を設定します。
- コンピュータ名 : ネットワーク上でサーバを認識するためのコンピュータ名を半角 15 文字以内で入力します。|"/, ¥=+<>;*? [:] の 15 種類の文字は使用できません。ネットワーク上の他のコンピュータ名、ドメイン名、またはワークグループ名は使用できません。同じ名前にならないように注意してください。
- サーバ種別 : サーバ種別を指定します。
- プライマリドメインコントローラ : ドメインの全てのコンピュータアカウントの変更情報を追跡するサーバです。プライマリドメインコントローラを選択した場合のみクライアントシステムの設計が行えます。
 - バックアップドメインコントローラ : プライマリドメインコントローラのディレクトリデータベースのコピーを保持するサーバです。
 - スタンドアロンサーバ : プライマリドメインコントローラ、バックアップドメインコントローラのどちらでもないサーバです。ワークグループに参加する場合はスタンドアロンサーバを選択します。

▼注意▼

サーバ種別を「バックアップドメインコントローラ」に設定した場合は、あらかじめプライマリドメインコントローラのサーバ側に、コンピュータアカウントを作成しておく必要があります。

作成してない場合には、プライマリドメインコントローラ側にアカウントを作成するため、管理者のユーザ名とパスワードを入力する必要があります。

次のメンバーに参加する

：作成、または参加するドメイン名、またはワークグループ名を入力します。半角 15 文字以内で入力してください。|"/, ¥=+<>;*? [:] の 15 種類の文字は使用できません。

インストールディレクトリ

：OS をインストールするディレクトリを入力します。

MS-DOS のファイル名の規約に従って、入力してください。

タイムゾーン

：コンピュータを使用する場所のタイムゾーンを選択します。

- 7) [次へ] をクリックします。
ネットワークの設定画面が表示されます。

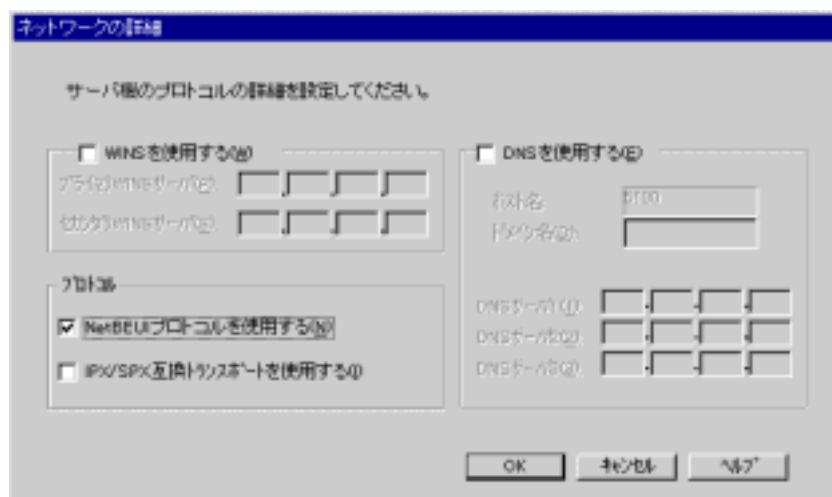


- 8) TCP/IP プロトコルを設定します。

DHCP を使用する : ネットワーク上に他の DHCP サーバがある場合に選択します。

DHCP を使用しない : TCP/IP の規約に従って、IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイに適切な値を入力します。

[詳細] ボタン : [詳細] ボタンをクリックすると、ネットワークの詳細画面が表示され、TCP/IP プロトコルの詳細や、他のプロトコルの設定が行えます。



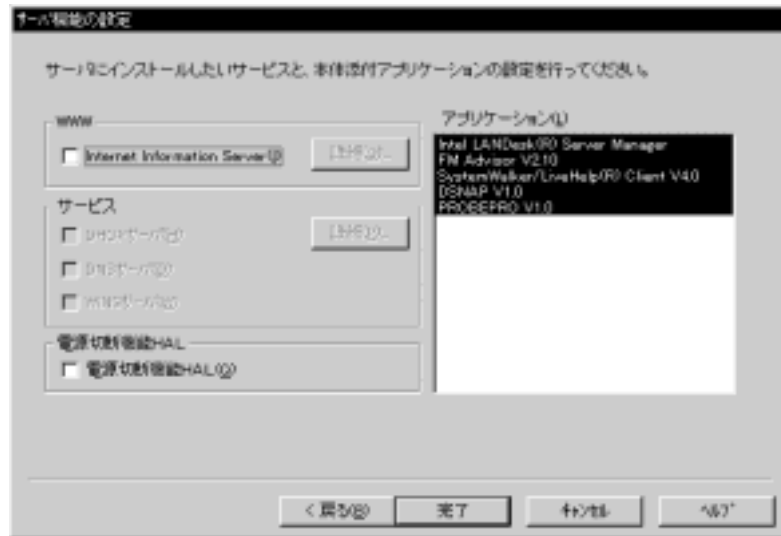
必要な項目を設定します。

WINS を使用する : 名前の解決に WINS を使用する場合にチェックします。TCP/IP の規約に従って、プライマリ WINS サーバ、セカンダリ WINS サーバの IP アドレスを入力してください。

DNS を使用する : 名前の解決に DNS を使用する場合にチェックします。ドメイン名、使用する DNS サーバの IP アドレスを TCP/IP の規約に従って入力してください。DNS サーバは3つまで指定できます。

プロトコル : TCP/IP の他に使用するプロトコルをチェックします。
[OK] をクリックすると、設定を有効にし、ネットワークの設定画面に戻ります。

- 9) [次へ] をクリックします。
サーバ機能の設定画面が表示されます。



- 10) 使用するサービス、アプリケーションを設定します。

WWW : Internet Information Server の設定を行います。

Internet Information Server (IIS)

: Internet Information Server をインストールして使用する場合にチェックします。[詳細] ボタンをクリックして、IIS の詳細画面で Internet Information Server の設定を行ってください。

サービス

DHCP サーバ : DHCP サーバをインストールして使用する場合にチェックします。[詳細] ボタンをクリックして、DHCP の設定画面で DHCP スコープを設定してください。

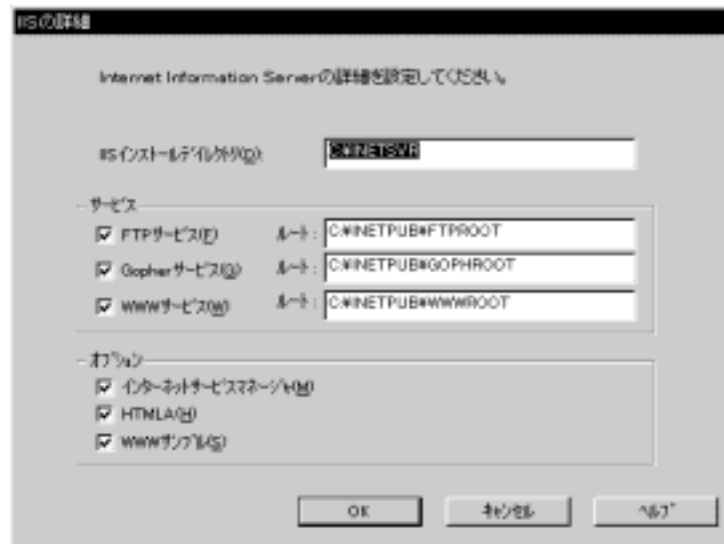
DNS サーバ : DNS サーバをインストールして使用する場合にチェックします。

WINS サーバ : WINS サーバをインストールして使用する場合にチェックします。

電源切断機能 HAL : 電源切断機能 HAL を使用する場合にチェックします。

アプリケーション : 使用する添付のサーバアプリケーションを選択します。複数選択できます。添付アプリケーションに関しては『付録 C 添付アプリケーションのインストール』を参照してください。

●IIS の詳細画面



IIS インストールディレクトリ

： Internet Information Server (IIS) をインストールするディレクトリを入力します。

サービス ： 利用する Internet Information Server のサービスをチェックし、それぞれのルートを入力します。

オプション ： 利用する Internet Information Server のオプションをチェックします。

[OK] をクリックすると、設定を有効にし、サーバ機能の設定画面に戻ります。

●DHCP の詳細画面



開始アドレス ： クライアントに配布する TCP/IP の開始アドレスを入力します。

終了アドレス ： クライアントに配布する TCP/IP の終了アドレスを入力します。

サブネットマスク ： クライアントに配布する TCP/IP のサブネットマスクを入力します。

[OK] をクリックすると、設定を有効にし、サーバ機能の設定画面に戻ります。

- 11) 「完了」をクリックします。
サーバ情報の確認画面が表示されます。

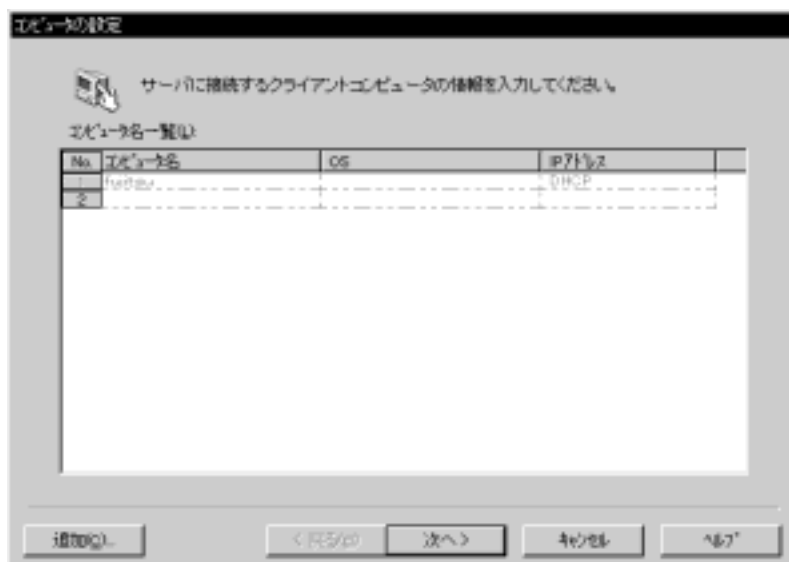


今まで設定してきた内容が確認できます。間違っている場合は修正することもできます。

- 12) 確認したいタブをクリックし、内容を確認、修正します。
- 13) 「OK」をクリックします。
DesignMagic の画面に戻ります。

2.3 クライアントシステム設計

- 1) 「クライアントシステム設計」をクリックします。
コンピュータの設定画面が表示されます。
あらかじめサーバのコンピュータ名が表示されています。



2) サーバに接続するクライアントコンピュータの情報を設定します。

接続する全てのクライアントコンピュータを登録してください。

コンピュータ名一覧：サーバに接続するクライアントコンピュータの一覧が表示されます。

新規にクライアントコンピュータを登録する場合は「追加」をクリックするか、空白領域でダブルクリックします。コンピュータの追加画面が表示されるので、クライアントコンピュータの情報を登録してください。

コンピュータ名 : クライアントのコンピュータ名です。欄をクリックし、直接入力することもできます。半角 15 文字以内で入力してください。|"/, ¥=+<>;*?[:] の 15 種類の文字は使用できません。すでに入力されているコンピュータ名（サーバ含む）と同じコンピュータ名は使用できません。最大 256 件登録できます。

OS : クライアントのコンピュータで使用する OS です。欄をクリックし、[▼] をクリックして OS を選択します。

IP アドレス : クライアントの IP アドレスの種別です。ユーザ操作によってネットワークの設定を行う場合には「手動設定」を選択します。DHCP サーバを設置し、DHCP クライアントに設定する場合には「DHCP」を選択します。

[追加] ボタン : コンピュータの追加画面が表示されます。サーバに接続するクライアントコンピュータの情報を設定します。すでに入力されている項目上では「変更」ボタンになり、設定を変更できます。

各項目を設定し、[追加] をクリックします。続けて追加するコンピュータを設定できます。すべてのコンピュータが設定できたら [閉じる] をクリックします。

クライアントのコンピュータ情報を登録し、コンピュータアカウントの作成画面に戻ります。

OnePoint

コンピュータ名一覧では、以下の操作が行えます。

変更：変更する項目欄をクリックし、入力または選択し直します。

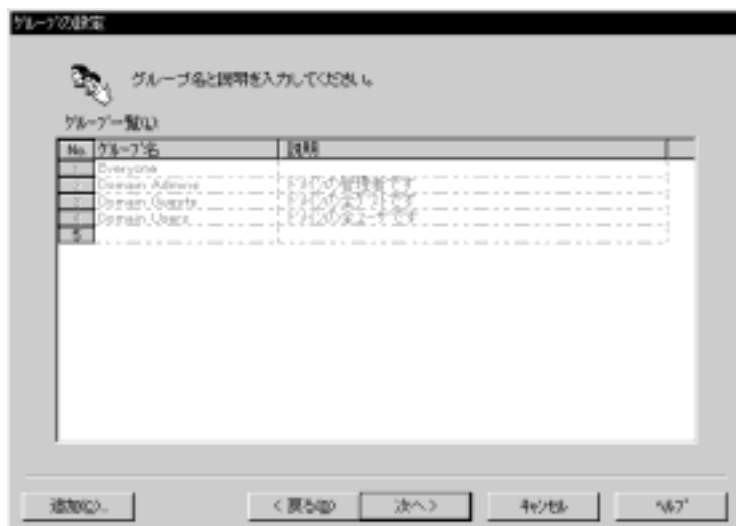
削除：削除する No. を右クリックし、「削除」を選択します。[Delete] キーを押しても削除できます。

複写：複写する No. を右クリックし、「コピー」を選択します。「切り取り」を選択すると移動になります。「貼り付け」を行うと、一番最後に追加されます。

3) [次へ] をクリックします。

22 2.3 クライアントシステム設計

グループの設定画面が表示されます。
 あらかじめ WindowsNT で予約されているグループ名が表示されています。



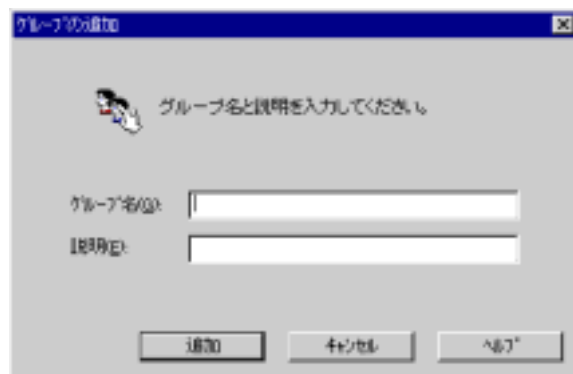
4) サーバを利用するグループを登録します。

グループ一覧 : サーバ上に作成するグループ名と説明です。新規に登録する場合は「追加」をクリックするか、空白領域でダブルクリックします。グループの追加画面が表示されるので、グループを登録してください。グループはグローバルグループとして登録します。

グループ名 : ユーザグループ名です。半角 20 文字以内で入力してください。|"/, ¥=+<>;*?[:] の 15 種類の文字は使用できません。欄をクリックし、直接入力することもできます。ユーザ名と同じグループ名は使用できません。また、WindowsNT であらかじめ予約されているグループ(Domain Admins, Domain Guests, Domain Users)は、作成できません。グループは、最大 256 件まで登録できます。

説明 : 作成したグループに対する説明です。欄をクリックし、直接入力することもできます。半角 64 文字以内で入力してください。省略することもできます。

「追加」ボタン : グループの追加画面が表示されます。すでに入力されている項目上では「変更」ボタンになり、設定を変更できます。



各項目を設定し、「追加」をクリックします。続けて追加するグループを設定できます。すべてのグループが設定できたら「閉じる」をクリ

ックします。
グループ情報を登録し、グループの作成画面に戻ります。

OnePoint

グループ一覧では、以下の操作が行えます。
変更：変更する項目欄をクリックし、入力または選択し直します。
削除：削除する No. を右クリックし、「削除」を選択します。[Delete] キーを押しても削除できます。
複写：複写する No. を右クリックし、「コピー」を選択します。「切り取り」を選択すると移動になります。「貼り付け」を行うと、一番最後に追加されます。

- 5) [次へ] をクリックします。
ユーザの設定画面が表示されます。
あらかじめ WindowsNT および ServerWizard で予約されているユーザ名が表示されています。



- 6) サーバを利用するユーザの情報を登録します。
- ユーザー一覧 : サーバを利用するユーザの一覧が表示されます。新規にユーザを登録するときは、[追加] をクリックするか、空白領域でダブルクリックします。ユーザの追加画面が表示されるので、ユーザの情報を登録します。
- ユーザ名 : サーバを利用するユーザ名です。半角 20 文字以内で入力してください。
|"/, ¥=+<>;*? [:] の 15 種類の文字は使用できません。
欄をクリックし、直接入力することもできます。ユーザ名は、WindowsNT のドメイン内で利用します。
グループ名と同じユーザ名は使用できません。
WindowsNT および ServerWizard であらかじめ予約されているユーザ名 (Administrator, Guest, SWClientSetupUser) は使用できません。
ユーザは最大 256 件まで登録できます。
- フルネーム : ユーザのフルネームです。欄をクリックし、直接入力することもできます。半角 64 文字以内で入力してください。省略することもできます。

- 説明 : ユーザに対する説明です。欄をクリックし、直接入力することもできます。半角 48 文字以内で入力してください。省略することもできます。
- [追加] ボタン : ユーザの追加画面が表示されます。すでに入力されている項目上では [変更] ボタンになり、設定を変更できます。

各項目を設定し、[追加] をクリックします。続けて追加するユーザを設定できます。すべてのユーザが設定できたら [閉じる] をクリックします。

ユーザ情報を登録し、ユーザアカウントの作成画面に戻ります。

OnePoint

ユーザー一覧では、次の操作が行えます。

変更 : 変更する項目欄をクリックし、入力または選択し直します。

削除 : 削除する No. を右クリックし、「削除」を選択します。[Delete] キーを押しても削除できます。

複写 : 複写する No. を右クリックし、「コピー」を選択します。「切り取り」を選択すると移動になります。「貼り付け」を行うと、一番最後に追加されます。

▼注意▼

ここでは、ユーザのパスワードは設定できません。セキュリティのためにも運用開始時に必ずパスワードを設定してください。

- 7) [次へ] をクリックします。
- 共有資源の設定画面が表示されます。
- あらかじめ ServerWizard で予約されている共有名が表示されています。

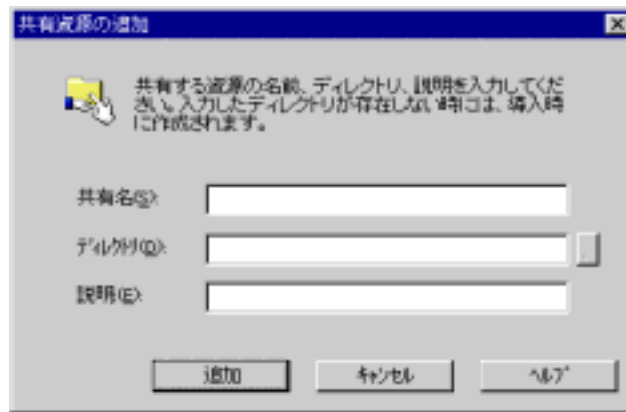


- 8) ユーザ、グループ等で共有して利用するフォルダ名を登録します。
- 共有資源一覧 : 登録されている共有資源の一覧です。新規に共有資源を設定する場合は「追加」をクリックするか、空白領域でダブルクリックします。共有資源の追加画面が表示されるので、共有資源の情報を登録してください。
- 共有名 : 共有するディスク資源の名前です。半角 80 文字以内で入力してください。|"/, ¥=+<>;*? [:] の 15 種類の文字は使用できません。欄をクリックし、共有名を直接入力することもできます。ServerWizard であらかじめ予約されている共有名(SVWIZARD)は使用できません。
共有名は、最大 32 件まで設定できます。
- ディレクトリ名 : 共有する資源のディレクトリです。半角で 246 文字まで入力できます。"/<>*|:??¥の9種類の文字は使用できません。欄をクリックし、直接入力することもできます。絶対パスで入力してください。
ここで入力したディレクトリは、インストール時に自動的に作成され、共有フォルダとして使用できます。

▼注意▼

8.3 形式 (xxxxxxxx.xxx) 以上の長さで入力した場合は、MS-DOS のワークステーションから共有できない可能性があります。

- 説明 : 共有資源に対する説明です。欄をクリックし、直接入力することもできます。半角 48 文字以内で入力してください。省略できます。
- 「追加」ボタン : 共有資源の追加画面が表示されます。すでに入力されている項目上では「変更」ボタンになり、設定を変更できます。



各項目を設定し、「追加」をクリックします。続けて追加する共有資源を設定できます。すべての共有資源が設定できたら「閉じる」をクリックします。
共有資源情報を登録し、共有資源の設定画面に戻ります。

OnePoint

共有資源一覧では、次の操作が行えます。

変更：変更する項目欄をクリックし、入力または選択し直します。

削除：削除する No. を右クリックし、「削除」を選択します。[Delete] キーを押しても削除できます。

複写：複写する No. を右クリックし、「コピー」を選択します。「切り取り」を選択すると移動になります。「貼り付け」を行うと、一番最後に追加されます。

9) 「完了」をクリックします。

クライアントシステム設計画面が表示されます。

ここで、ユーザがどのグループに所属するか、利用する共有資源はどれかなどの関連付けを行います。



10) クライアントの各関連付けを設定します。

[ユーザとグループ] タブ

- ：ユーザごとに所属するグループを設定します。
- グループ：横項目にユーザグループの作成画面で作成したグループ名が表示されます。
- ユーザ：ユーザ欄にユーザ名が表示されます。ユーザごとに、所属するグループを設定します。欄をクリックするとチェックマークが付き、グループに設定されます。各欄をクリックして右下隅をドラッグすると、ドラッグした範囲内を一度に設定できます。

OnePoint

グループに属するユーザ全員を確認するには、構成一覧の [グループ] タブをクリックします。

[グループと共有資源] タブ

- ：グループで利用できる共有資源を設定します。
- 共有資源：横項目に共有資源の作成画面で作成した共有資源名が表示されます。
- グループ：グループ名が表示されます。グループごとに、使用する共有資源を設定します。欄をクリックすると選択されているアクセス権が設定されます。各欄をクリックして右下隅をドラッグすると、ドラッグした範囲内を一度に設定できます。

▼注意▼

"Everyone"グループのアクセス権は、十分注意してください。「アクセス権なし」に設定した場合は、全てのユーザがアクセスできない状態になります。デフォルトの「フルコントロール」では、全てのユーザのアクセスを許可しています。アクセス権を設定しない場合（空欄）は、他のアクセス権の状態に依存します。依存の関係については WindowsNT のマニュアルを参照してください。

[ユーザと共有資源] タブ

- ：ユーザが利用できる共有資源を設定します。
- 共有資源：横項目に共有資源の作成画面で作成した共有資源名が表示されます。
- ユーザ：ユーザ名が表示されます。ユーザごとに、使用する共有資源を設定します。欄をクリックすると選択されているアクセス権が設定されます。各欄をクリックして右下隅をドラッグすると、ドラッグした範囲内を一度に設定できます。
- 構成一覧を表示：グループ、ユーザ、共有資源を構成する一覧を表示する場合にチェックします。



構成一覧は、[グループ] タブ、[ユーザ] タブ、[共有] タブを切り替えることで、一覧の内容が切り替わります。

構成一覧表に表示されているアイコンは次のとおりです。

- ...  作成したグループを表しています。
- ...  作成したユーザを表しています。
- ...  作成した共有資源を表しています。

[最新情報に更新] ボタン

：構成一覧の表示内容を設定されている最新の情報に更新します。このボタンをクリックすると設定を追加、変更した内容が構成一覧に反映されます。

アクセス権 ：共有資源に対して設定するアクセス権の種類が表示されます。[▼] をクリックして設定するアクセス権を変更できます。

フルコントロール ：全ての操作が行えます。

変更のみ ：変更のみ行えます。

読み込みのみ ：読み込みのみ行えます。書き込みはできません。

アクセス権なし ：アクセスすることはできません。

●クライアントシステム設計画面のツールバー

「表示」メニューの「ツールバー」表示が有効の場合、以下のアイコンが表示されます。

[コンピュータの設定] アイコン



：クライアントコンピュータを追加または変更する場合にクリックします。コンピュータの設定画面が表示されます。

[グループの設定] アイコン



：グループを追加または変更する場合にクリックします。グループの設定画面が表示されます。

[ユーザの設定] アイコン



：ユーザを追加または変更する場合にクリックします。ユーザの設定画面が表示されます。

[共有資源の設定] アイコン



：共有資源を追加または変更する場合にクリックします。共有資源の設定画面が表示されます。

〔適用〕 アイコン : クライアントシステム設計画面での設定を有効にします。



ただし、DesignMagic では〔適用〕 アイコンは使用できません。

〔ヘルプ〕 アイコン: 画面の説明が表示されます。



●クライアントシステム設計画面のメニュー

クライアントシステム設計画面には、次のメニューがあります。

「設定」メニュー

〔追加／変更〕 : 追加変更には、次のサブメニューがあります。

〔コンピュータ〕 : コンピュータ情報を追加または変更します。

〔グループ〕 : グループ情報を追加または変更します。

〔ユーザ〕 : ユーザ情報を追加または変更します。

〔共有資源〕 : 共有資源情報を追加または変更します。

〔アクセス権選択〕: 表示されたサブメニューからアクセス権を選択します。

〔フルコントロール〕: 全ての操作が行えます。

〔変更のみ〕 : 変更のみ行えます。

〔読込みのみ〕 : 読込みのみ行えます。書き込みはできません。

〔アクセス権なし〕 : アクセスすることはできません。

〔保存せずに終了〕: クライアントシステム設計で設定した内容を保存せずに終了します。

〔終了〕 : クライアントシステム設計で設定した内容を保存して、クライアントシステム設計を終了します。

「表示」メニュー

〔ツールバー〕 : ツールバーの表示、非表示を切り替えます。

〔ステータスバー〕 : ステータスバーの表示、非表示を切り替えます。

〔構成一覧〕 : 構成一覧の表示、非表示を切り替えます。

〔構成一覧のキー〕: 構成一覧を表示にした場合に有効になります。次のサブメニューが表示されます。

〔グループ〕 : 構成一覧に登録されているグループで表示します。

〔ユーザ〕 : 構成一覧に登録されているユーザで表示します。

〔共有資源〕 : 構成一覧に登録されている共有資源で表示します。

〔構成一覧の更新〕: 構成一覧の表示内容を設定されている最新の情報に更新します。

〔設定〕 : 関連付けを行う項目を切り替えます。次のサブメニューが表示されます。

〔ユーザとグループ〕 : ユーザが所属するグループを設定します。

〔グループと共有資源〕 : グループが使用する共有資源を設定します。

〔ユーザと共有資源〕 : ユーザが使用する共有資源を設定します。

11) 「設定」メニューから〔終了〕を選択します。

▼注意▼

【保存せずに終了】を選択した場合は、クライアントシステム設計での設定は登録されません。

クライアントシステム設計での設定を登録する場合は、【終了】を選択してください。

DesignMagic の画面に戻ります。

2.4 クライアントセットアップ

クライアントセットアップでは、クライアントセットアップ機能を利用する場合の設定を行います。

クライアントにセットアップできる資源には、次の3種類があります。

●アプリケーション

複数のファイルで構成された資源で、Setup コマンドなどによりインストールするアプリケーションソフトウェアです。なお、インストールが自動化されておらずインストール時に操作が必要なアプリケーションについては、Rational Visual Test などで作成したスクリプトが必要になります。

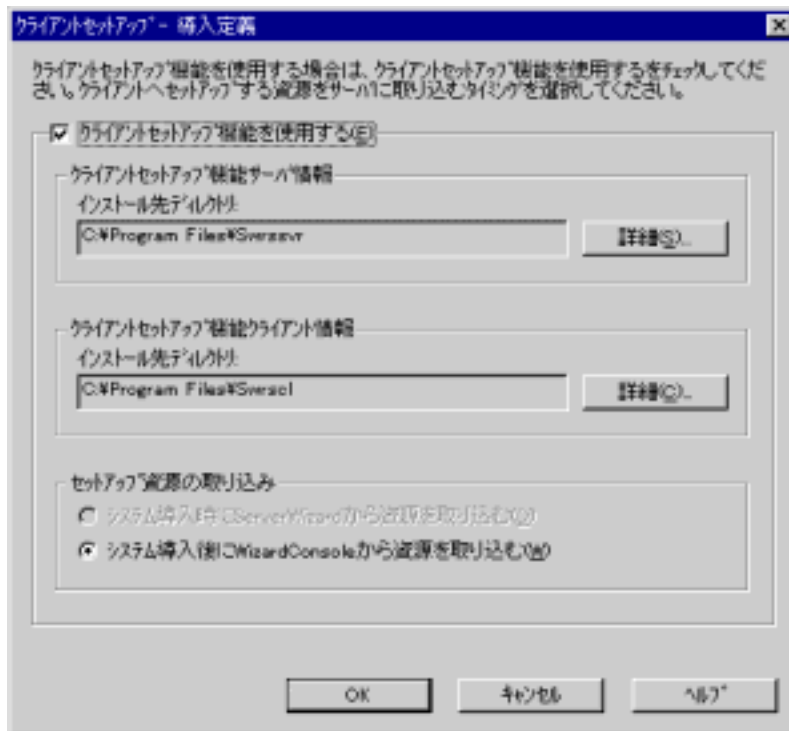
●ファイル

単純にコピーしてセットアップする資源です。ディレクトリを指定することで複数のファイルを一度にセットアップできます。

●実行コマンド

クライアント側で実行するコマンドです。実際にクライアントへのコピーは行わず、コマンドの実行のみを行います。

- 1) 「クライアントセットアップ」をクリックします。
クライアントセットアップ導入定義画面が表示されます。



- 2) 「クライアントセットアップ機能を使用する」をチェックし、各項目を設定します。

▼注意▼

ここで「クライアントセットアップ機能を使用する」をチェックしないと、クライアントセットアップ機能は使用できません。

クライアントセットアップ機能サーバ情報

インストール先ディレクトリ

：クライアントセットアップ機能サーバをインストールするサーバ上のディレクトリが表示されます。

[詳細] ボタン：クライアントセットアップ機能サーバ情報の詳細画面を表示します。サーバ情報の詳細が表示されます。



インストール先ディレクトリ

：クライアントセットアップ機能サーバのインストールディレクトリを指定します。

デフォルトには、「C:\Program Files\Swrssvr」が表示されます。

共有ディレクトリ：クライアントセットアップ機能サーバが使用するセットアップ資源の格納ディレクトリを指定します。デフォルトには「[SwAplDrv]\Swrsinst」が表示されます。共有ディレクトリでデフォルトで表示される「[SwAplDrv]」はマクロ指定で、[]内の文字列と同一ドライブラベルのドライブ名に置き換えられて処理が行われます。なお、マクロで指定したドライブラベルが見つからない場合は、「C:」ドライブに置き換えられます。マクロ指定を使用せず、直接ドライブ名を指定することもできます。

共有名：セットアップ資源の格納ディレクトリとなる共有ディレクトリの共有名を指定します。デフォルトには、「SWRSINST」が表示されます。

通信ポート番号：クライアントセットアップ機能クライアントとの通信に使用するポート番号を1～65535の範囲で指定します。通常、ポート番号を変更する必要はありません。

クライアントセットアップ機能クライアント情報

インストール先ディレクトリ

：クライアントセットアップ機能クライアントをインストールするクライアントマシン上のディレクトリを指定します。

[詳細] ボタン：クライアントセットアップ機能クライアント情報の詳細画面を表示します。クライアント情報の詳細を設定できます。



インストール先ディレクトリ

：クライアントセットアップ機能クライアントのインストールディレクトリを指定します。このインストール先ディレクトリは、クライアントマシン上のディレクトリを指定します。デフォルトには、「C:\Program Files\Swscl」が表示されます。

セットアップ資源の取り込み

：クライアントにセットアップする資源を取り込むタイミングを指定します。

3) [OK] をクリックします。

クライアントセットアップーセットアップ資源情報の設定画面が表示されます。



セットアップ資源情報にアプリケーションを登録する場合は『2.4.1 セットアップ資源情報（アプリケーション）を登録する』を参照してください。

セットアップ資源情報にファイルを登録する場合は『2.4.2 セットアップ資源情報（ファイル）を登録する』を参照してください。

セットアップ資源情報に実行コマンドを登録する場合は、『2.4.3 セットアップ資源情報（実行コマンド）を登録する』を参照してください。

「セットアップ資源情報の設定」で設定した資源は、「クライアントシステム設計」の「コンピュータの設定」で設定したクライアントコンピュータに対してインストールが行われます。追加できるセットアップ資源情報は 64 個までです。

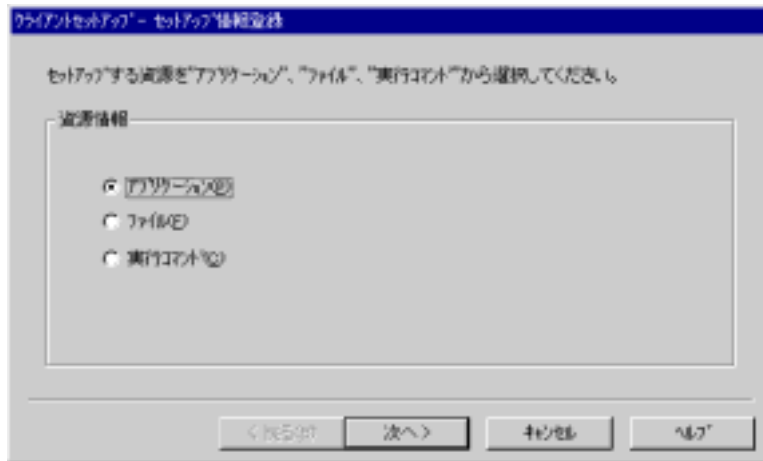
▼注意▼

クライアントセットアップを使用する場合は、セットアップ資源情報の設定を必ず行ってください。システム導入後に設定することはできません。

- 4) すべての資源情報が設定できたら「閉じる」をクリックします。
DesignMagic の画面に戻ります。

2.4.1 セットアップ資源情報（アプリケーション）を登録する

- 1) 「追加」をクリックします。
クライアントセットアップ—セットアップ情報登録画面が表示されます。



OnePoint

すでに登録されているセットアップ情報の設定を変更する場合は、変更するセットアップ情報を選択し、「変更」をクリックします。
以降の操作は同じです。あらかじめ登録されている設定が表示されるので、必要に応じて修正してください。

- 2) 「アプリケーション」をクリックし、「次へ」をクリックします。
次の設定画面が表示されます。

3) 登録するアプリケーションの情報を入力します。

アプリケーション資源識別名

: 登録するアプリケーション資源の識別名を入力します。アプリケーション資源識別名は、英数小文字 8 文字以内で入力してください。

コメント

: アプリケーション資源についての情報を入力します。英数 64 文字または日本語 32 文字以内で入力します。省略できます。

アプリケーションをサーバに複写する

: アプリケーションをサーバに複写する場合はチェックし、以下の項目を設定します。

資源格納元フォルダ: アプリケーション資源が格納されているフォルダを入力します。

複数資源を使用する: 複数の媒体を使用する場合にチェックし、枚数を指定します。サブフォルダを使用する場合は、「サブフォルダを使用する」をチェックしてください。

アプリケーションをサーバに複写する

: チェックしない場合は、以下の項目を設定します。

格納元 UNC パス名: アプリケーションの格納されているディレクトリを UNC パス形式で入力します。[...] をクリックし、ネットワークフォルダの一覧から選択することもできます。ただし、指定できるフォルダは、各コンピュータで共有指定されているフォルダのみです。サブフォルダは指定できません。

ログイン名: 資源格納元にログインするログイン名を入力します。20 文字以内で入力してください。記号は使用できません。

パスワード: 資源格納先にログインする際のパスワードを入力します。14 文字以内で入力してください。記号は使用できません。なお、DesignMagic の「ファイル」メニューから「印刷」を行った場合、パスワードは印刷されません。

▼注意▼

アプリケーションをサーバに複写せずにインストールする場合、インストールできるアプリケーションは一つになります。

- 4) [次へ] をクリックします。
次の設定画面が表示されます。

- 5) 起動コマンド、起動パラメータを設定します。
- 起動コマンド : アプリケーションをインストールする起動コマンドを入力します。資源格納元フォルダまたは格納元 UNC パスの下に起動コマンドがある場合は、コマンド名のみ指定してください。資源格納元フォルダまたは格納元 UNC パスの下のディレクトリ配下に起動コマンドがある場合は、"ディレクトリ名¥起動コマンド名"を指定してください。255 文字以内で入力してください。
- 起動パラメータ : 起動コマンドのパラメータを入力します。255 文字以内で入力してください。省略できます。
- 実行時にカレントで実行する : 実行フォルダをカレントにする場合にチェックします。

- 6) [次へ] をクリックします。
次の設定画面が表示されます。

- 7) スクリプトを使用するかしないかを指定します。
スクリプトを使用する：スクリプトを使用する場合はチェックし、次の項目を指定します。

スクリプトファイル名

：スクリプトファイル名を入力します。255 文字以内で入力してください。

起動方法

：スクリプトの起動方法を入力、または選択します。255 文字以内で入力してください。

「SW_COMMAND」はマクロ指定で、スクリプトファイル名に指定した文字列と置き換えられます。起動方法に、スクリプトファイル名で指定したファイルを指定する場合は、必ず「SW_COMMAND」マクロを指定してください。

なお、スクリプトの起動方法は、各マニュアルに記載されている起動方法を参照して指定してください。

- 8) [次へ] をクリックします。

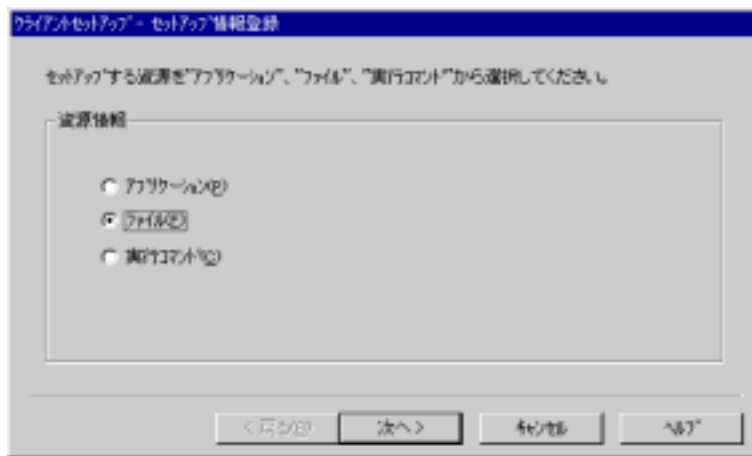
クライアントにセットアップする資源の取り込み画面が表示されます。



- 9) 設定内容を確認し、[登録] をクリックします。
クライアントセットアップ—セットアップ資源情報の設定画面に戻ります。
続けてセットアップする資源情報を設定できます。

2.4.2 セットアップ資源情報（ファイル）を登録する

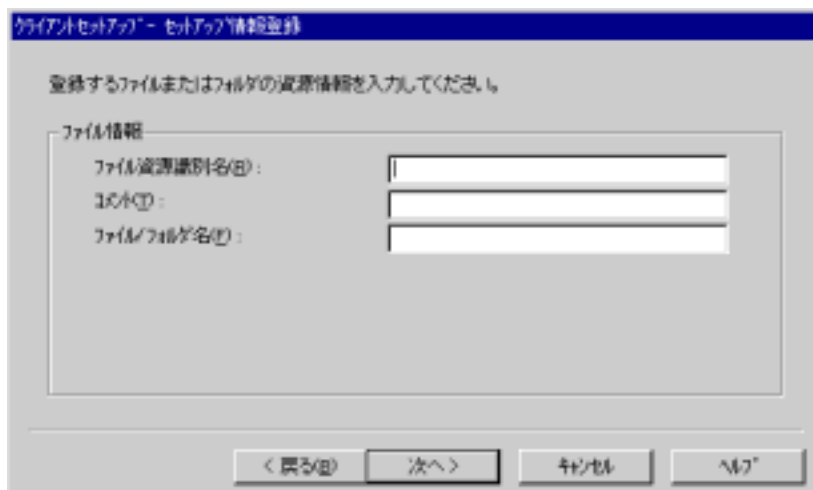
- 1) 「追加」をクリックします。
クライアントセットアップ—セットアップ情報登録画面が表示されます。



OnePoint

すでに登録されているセットアップ情報の設定を変更する場合は、変更するセットアップ情報を選択し、「変更」をクリックします。
以降の操作は同じです。あらかじめ登録されている設定が表示されるので、必要に応じて修正してください。

- 2) 「ファイル」をクリックし、「次へ」をクリックします。
次の設定画面が表示されます。



- 3) 登録する資源の情報を入力します。

ファイル資源識別名

: ファイル資源の識別名を入力します。英数小文字 8 文字以内で入力してください。

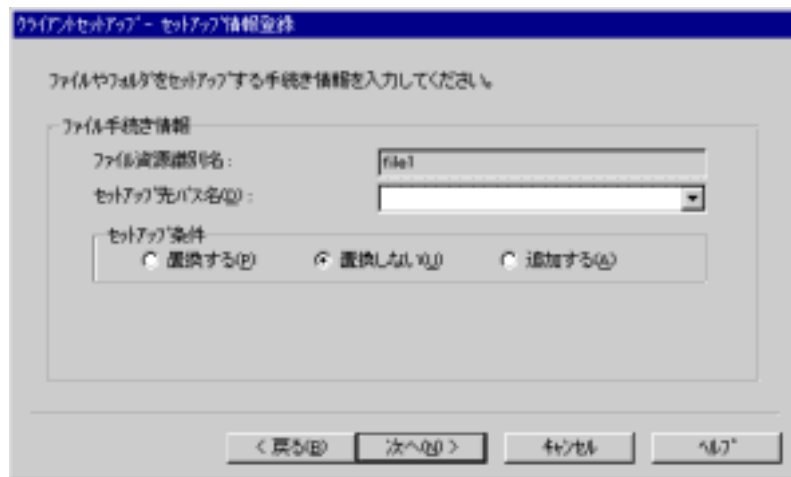
コメント

: ファイル資源に対する情報を入力します。64 文字以内で入力します。省略できます。

ファイル／フォルダ名

: ファイルまたはフォルダ名を入力します。255 文字以内で入力してください。

- 4) 「次へ」をクリックします。
次の設定画面が表示されます。



- 5) ファイルまたはフォルダの手続き情報を設定します。

セットアップ先パス名

: ファイル資源のセットアップ先パス名をドライブ名から入力します。255 文字以内で入力します。次のマクロ指定ができます。

[BootDir] ブートドライブ

[WinApp] Windows アプリケーションディレクトリ

[WinDir] Windows ディレクトリ

[WinSysDir] Windows システムディレクトリ

[WinTmp] Windows テンポラリディレクトリ

セットアップ条件 : 同一ファイル名が存在した場合の処理を選択します。

- 6) 「次へ」をクリックします。
クライアントにセットアップする資源の取り込み画面が表示されます。



- 7) 設定内容を確認し、「登録」をクリックします。
クライアントセットアップーセットアップ資源情報の設定画面に戻ります。
続けてセットアップする資源情報を設定できます。

2.4.3 セットアップ資源情報（実行コマンド）を登録する

- 1) 「追加」をクリックします。
クライアントセットアップーセットアップ情報登録画面が表示されます。



OnePoint

すでに登録されているセットアップ情報の設定を変更する場合は、変更するセットアップ情報を選択し、「変更」をクリックします。
以降の操作は同じです。あらかじめ登録されている設定が表示されるので、必要に応じて修正してください。

- 2) 「実行コマンド」をクリックし、[次へ] をクリックします。
次の設定画面が表示されます。

- 3) 登録する実行コマンドの情報を入力します。

実行コマンド資源識別名

: 実行コマンド資源の識別名を入力します。英数小文字 8 文字以内で入力してください。

コメント

: 実行コマンド資源に対する情報を入力します。64 文字以内で入力してください。省略できます。

実行コマンド名

: 実行コマンド名を入力します。255 文字以内で入力してください。

起動方法

: 実行コマンドの起動方法を入力、または選択します。255 文字以内で入力してください。

「SW_COMMAND」はマクロ指定で、スクリプトファイル名に指定した文字列と置き換えられます。起動方法に、スクリプトファイル名で指定したファイルを指定する場合は、必ず「SW_COMMAND」マクロを指定してください。

- 4) [次へ] をクリックします。

クライアントにセットアップする資源の取り込み画面が表示されます。

- 5) 設定内容を確認し、[登録] をクリックします。

クライアントセットアップ—セットアップ資源情報の設定画面に戻ります。

続けて登録する資源をセットアップできます。

2.5 設定情報の確認、登録

サーバ設計、クライアントシステム設計、クライアントセットアップで設定した内容をフロッピーディスクに保存します。これらの情報は、サーバ情報ファイルとして保存され、サーバのセットアップ時に使用します。

■設定内容の確認（印刷）

サーバ設計、クライアントシステム設計、クライアントセットアップで設定した内容を、印刷して確認できます。

印刷するプリンタの設定は、あらかじめ「プリンタの設定」で行っておいてください。

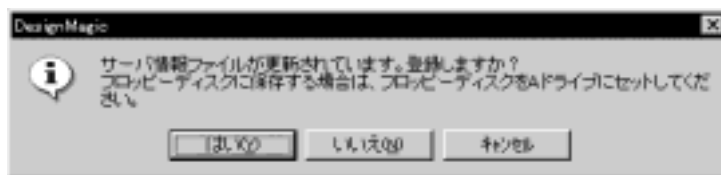
- 1) DesignMagic 画面の「ファイル」メニューから「印刷」を選択します。
印刷の確認画面が表示されます。
- 2) 「OK」をクリックします。
設定されている内容が印刷されます。

▼注意▼

- DesignMagic で、サーバ設計、クライアントシステム設計、クライアントセットアップの設定内容の印刷をする場合、クライアントシステム設計で以下の設定を行った場合、グループおよび共有資源に関する関連付け情報が大量に印刷されます。
グループに対して、多くのユーザを所属するように設定した場合
共有資源に対して、多くのユーザのアクセス権を設定した場合
共有資源に対して、多くのグループのアクセス権を設定した場合
コンピュータとユーザをそれぞれ 40 件、グループ、共有資源、クライアントセットアップをそれぞれ 20 件登録し、全て関連付けた場合には約 40 ページ印刷されます。
- スプールするデータ形式が EMF 形式の場合、印刷が正しく行われない場合があります。
必ず RAW 形式に変更してください。変更方法は、各 OS のマニュアルを参照してください。

■設定情報を登録して終了する

- 1) 「終了」をクリックします。
設定した内容が保存されていない場合は、メッセージが表示されます。



- 2) 初期化済みのフロッピーディスクをドライブ A にセットし、「はい」をクリックします。
保存の画面が表示されます。
- 3) ファイル名を入力して「OK」をクリックします。
拡張子は".SPD"です。
フロッピーディスクへの登録が終了すると、DesignMagic が終了します。

第 3 章 ServerWizard

ServerWizard では、サーバのインストール、セットアップを、画面の指示に従って操作するだけで簡単に行うことができます。また、設定した内容は、サーバ情報ファイルとしてフロッピーディスクに保存することができます。

あらかじめサーバ情報ファイルが用意されている場合は、サーバ情報ファイルが登録されているフロッピーディスクをセットするだけで、自動的にサーバのセットアップが行えます。

また、サーバ情報ファイルは DesignMagic で作成できます。

サーバ情報ファイルがない場合は、『3.3 サーバのセットアップ（新規）』を、サーバ情報ファイルがある場合は、『3.4 サーバのセットアップ（読み込み）』を参照してください。

3.1 サーバ導入前の準備

サーバを導入する前に、以下の準備が必要です。

- ・ 本体添付マニュアルを参照し、ハードウェア装置の組み立てを正確に行ってください。
組み立て完了後、正しいスロットに正規のオプションカードが装着されていることを確認してください。
- ・ BIOS セットアップユーティリティを使用して、ハードウェア環境を設定してください。
- ・ カードを装着後は、必ずコンフィグレーションユーティリティ(ICU(ISA コンフィグレーションユーティリティ)または SSU(システムセットアップユーティリティ))を実行しておいてください。詳しくは本体に添付のマニュアルを参照してください。
- ・ オプションの SCSI カードを搭載して、外部 SCSI オプション装置(ハードディスクキャビネット、光磁気ディスクユニットなど)を増設する場合は、WindowsNT のセットアップが終了してから電源を切断し、接続を行ってください。
- ・ 複数枚 LAN カードを搭載する場合は、WindowsNT のセットアップが終了してから電源を切断し、カードを搭載してください。

3.2 ServerWizard の起動

ServerWizard の CD-ROM をセットし、ServerWizard を起動します。

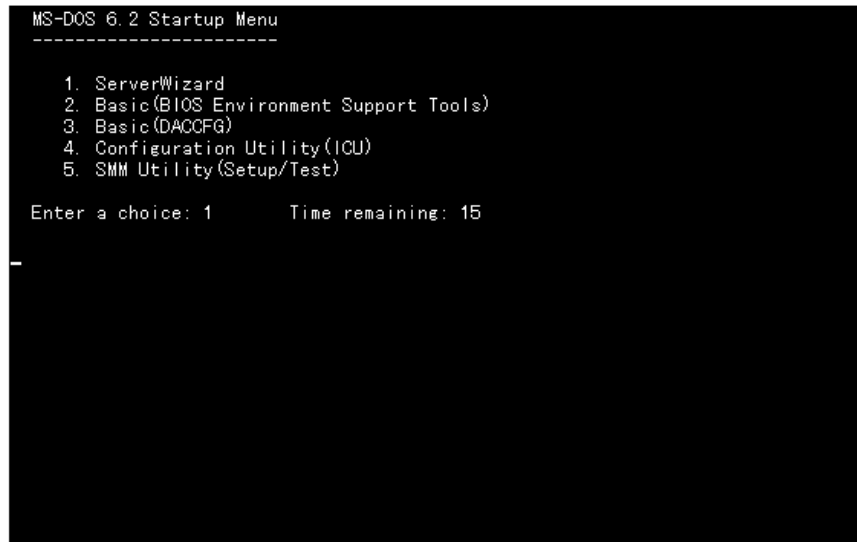
電源を入れる前に、CRT ディスプレイ／キーボード／マウス／電源ケーブルが正しく接続されているかを確認してください。

▼ 注意 ▼

WindowsNT Server インストールタイプのセットアップを行うには、システムの開封作業を ServerWizard で行う必要があります。

ServerWizard CD をセットする前に、WindowsNT のソフトウェア使用許諾契約同意画面が表示された場合には、[同意しません(D)] を選択し、シャットダウン操作を行ってください。

- 1) 電源を入れます。
RAM モジュールの確認や POST 処理が開始されます。
- 2) CD-ROM の取り出しボタンを押し、ServerWizard の CD-ROM をセットします。
次の画面が表示されます。



- 3) ServerWizard を選択し【Enter】キーを押します。
ServerWizard が起動します。
ServerWizard を選択せずに、そのままの状態でも自動的に ServerWizard が起動します。



[セットアップ] : サーバのセットアップ、インストールを行います。
[ユーティリティ] : バックアップディスクの作成を行います。

[ソフトウェア説明書]

：ServerWizard に関する説明を表示します。マニュアルに書かれていない注意事項や制限などが記述されています。ServerWizard をお使いになる前に必ずお読みください。

[終了]

：ServerWizard を終了します。

▼ 注意 ▼

ServerWizard が起動できない場合は、サーバ本体に添付のマニュアルに従い、CD-ROM のブートが可能になっているか、項目の値が以下の順番になっているか確認してください。

1. CD-ROM
2. フロッピーディスク
3. ハードディスク

3.3 サーバのセットアップ（新規）

サーバのセットアップ情報を設定し、セットアップ、インストールを行います。ここで設定したセットアップ情報は、サーバ情報ファイルとしてフロッピーディスクに登録されます。

▼ 注意 ▼

セットアップ、インストール途中で、エラーや電源切断などで中断した場合は、必ず最初からセットアップをやり直してください。

- 1) ServerWizard を起動します。
- 2) 「セットアップ」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 3) 「新規」を選択し、【Enter】キーを押します。
サーバ情報の設定画面が表示されます。



OnePoint

サーバ情報ファイルが登録されているフロッピーディスクがある場合は、「読み込み」を選択します。→『3.4 サーバのセットアップ (読み込み)』

サーバ情報の設定を途中で終了する場合は、【Esc】キーを押します。

- 4) 機種名、導入種別、インストールする OS を設定します。

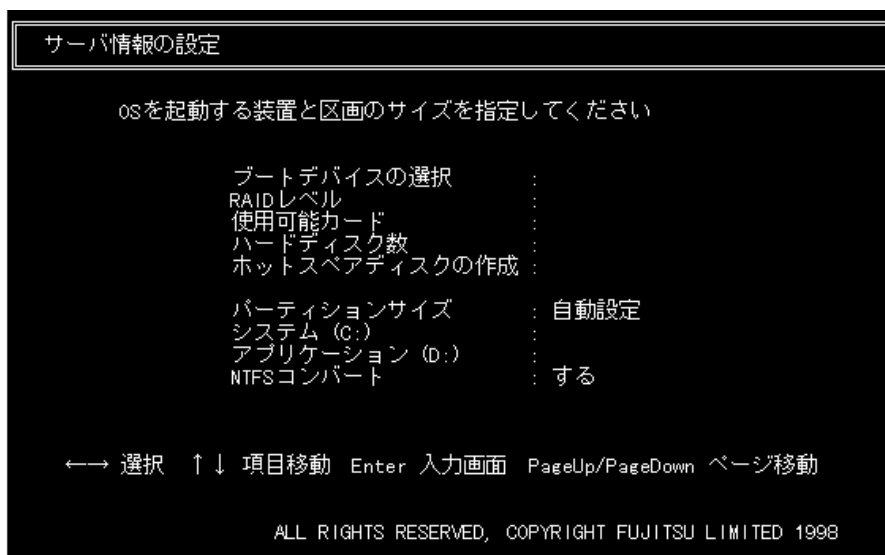
機種名 : 購入したサーバ機種名を【←】【→】キーで選択します。
導入種別 : サーバに OS がプレインストールされている場合は「新規導入」か「プレインストール」かを【←】【→】キーで選択します。OS がプレインストールされていない場合は「新規導入」になります。
導入 OS : サーバで使用する OS を【←】【→】キーで選択します。

▼注意▼

ご使用になる「機種名」が正しく表示されていることを確認してください。
異なる機種を指定した場合は、正常にインストールが行われません。

- 5) 【PageDown】キーを押します。

次の設定画面が表示されます。



- 6) OS が起動する装置と区画を設定します。

ブートデバイスの選択 : OS が起動する装置を【←】【→】キーで選択します。RAID を使用する場合は、RAID の各項目を設定します。
RAID レベル : RAID のレベルを【←】【→】キーで選択します。
使用可能カード : 使用する RAID カードを【←】【→】キーで選択します。
ハードディスク数 : サーバで使用するハードディスクの台数を【←】【→】キーで選択します。実際に装着する台数（ホットスペアディスクを除く）を指定してください。

ホットスペアディスクの作成

：ホットスペアディスクを作成するかしないかを【←】【→】キーで選択します。

ホットスペアディスクを作成する場合、実際に装着するディスク台数は「台数」で指定したディスク+1台となります。

たとえば、台数を3台指定しホットスペアディスクを作成する場合にチェックした場合は、サーバには必ず4台のハードディスクを装着してください。ハードディスクの台数について詳しくは『付録A こんなときは(Q&A)』の『Q. RAIDを構築するときの注意点は?』を参照してください。

パーティションサイズ

：システム区画(C:ドライブ)とアプリケーション区画(D:ドライブ)を自動設定するか、手動設定するかを【←】【→】キーで選択します。

「自動設定」の場合は、システム区画、アプリケーション区画ともにデフォルト値で設定されます。「手動設定」を選択した場合は、システム区画(デフォルト4096MB、NTFS)と、アプリケーション区画(デフォルト4096MB、NTFS)の大きさを【Enter】キーを押して入力します。合計で8192MBまでの区画を作成できます。

NTFS コンバート 　：システム区画のファイルシステムをNTFSに変換するかしないかを【←】【→】キーで選択します。

OnePoint

実際のサーバでは、管理領域に使用されるため、区画は指定した容量より小さくなることがあります。また、指定した容量より小さなハードディスクが装着されていた場合、区画(D:ドライブ)が作成されなかったり、自動的にサイズを変更する場合があります。

アプリケーションドライブは、NTFSで初期化します。システムドライブに関しては、NTFSが指定されなかった場合はFATで初期化します。

7) 【PageDown】キーを押します。

次の設定画面が表示されます。



- 8) WindowsNT のユーザ情報、コンピュータ情報、クライアントライセンス情報を入力します。
- ユーザ名 : 【Enter】キーを押して OS をインストールする際に登録するユーザ名を半角 50 文字以内で入力します。
- 組織名 : 【Enter】キーを押して OS をインストールする際に登録する組織名を半角 50 文字以内で入力します。
- CD キー : 【←】【→】キーでプロダクト ID と CD キーが切り替わります。どちらかを選択して、【Enter】キーを押してプロダクト ID または CD キーを入力します。プロダクト ID はファーストステップガイドの表紙、CD キーは CD ケースの裏を確認してください。
- クライアントライセンス : NT クライアントのライセンスの形態を【←】【→】キーで選択します。
- ライセンス数 : 【Enter】キーを押してクライアントライセンスで「同時使用ユーザ数」を指定した場合に、同時に使用するユーザ数を入力します。
- コンピュータ名 : 【Enter】キーを押してサーバのコンピュータ名を半角 15 文字以内で入力します。|"/、¥=+<>;*? [:] の 15 種類の文字は使用できません。
- サーバ種別 : サーバ種別を【←】【→】キーで選択します。
- プライマリドメインコントローラ : ドメインの全てのコンピュータアカウントの変更情報を追跡するサーバです。プライマリドメインコントローラを選択した場合のみクライアントシステムの設計が行えます。
- バックアップドメインコントローラ : プライマリドメインコントローラのディレクトリデータベースのコピーを保持するサーバです。
- スタンドアロンサーバ : プライマリドメインコントローラ、バックアップドメインコントローラのどちらでもないサーバです。ワークグループに参加する場合はスタンドアロンサーバを選択します。

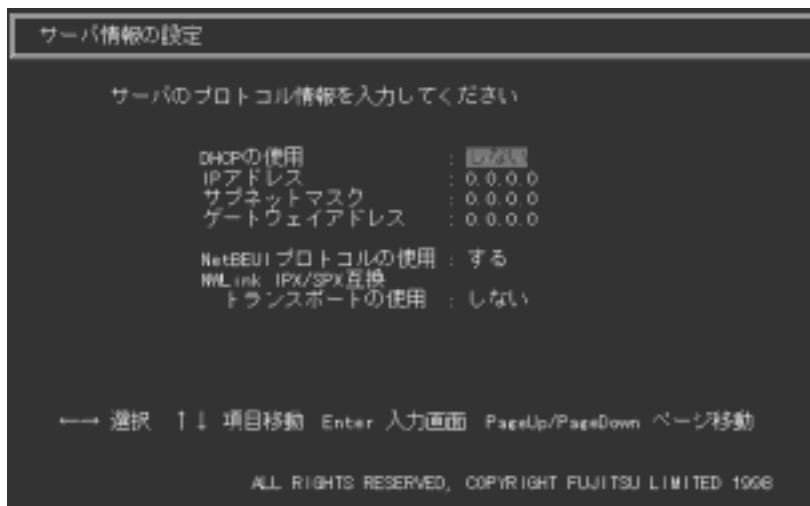
▼注意▼

サーバ種別を「バックアップドメインコントローラ」に設定した場合は、あらかじめプライマリドメインコントローラのサーバ側に、コンピュータアカウントを作成しておく必要があります。

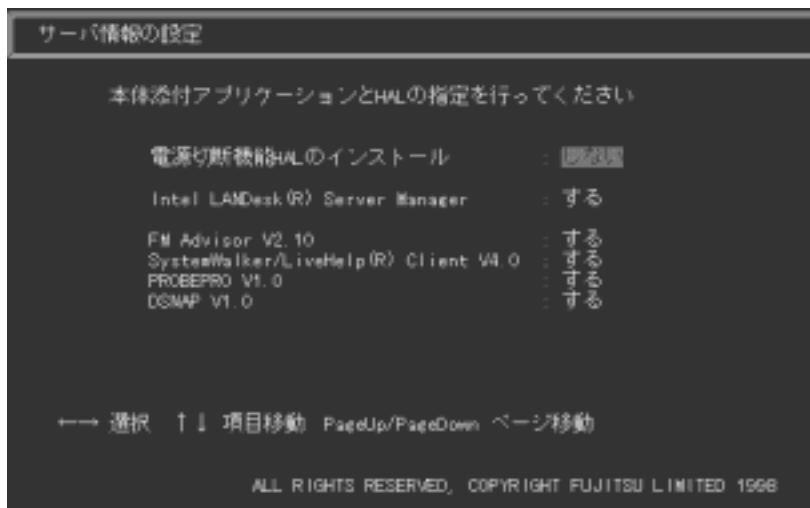
作成していない場合には、プライマリドメインコントローラ側にアカウントを作成するため、管理者のユーザ名とパスワードを入力する必要があります。

- メンバー : 「スタンドアロンサーバ」を選択した場合に、ドメインに参加するかワークグループに参加するかを【←】【→】キーで選択します。
- ワークグループ名 : ワークグループに参加する場合は、【Enter】キーを押してワークグループ名を入力します。半角 15 文字以内で入力してください。|"/、¥=+<>;*? [:] の 15 種類の文字は使用できません。
- ドメイン名 : ドメインに参加する場合は、【Enter】キーを押してドメイン名を入力します。半角 15 文字以内で入力してください。|"/、¥=+<>;*? [:] の 15 種類の文字は使用できません。
- インストールディレクトリ : 【Enter】キーを押して OS をインストールするディレクトリを入力します。MS-DOS のファイル名の規約に従って入力してください。

- 9) 【PageDown】キーを押します。
次の設定画面が表示されます。



- 10) サーバのプロトコル情報を設定します。
- DHCP の使用 : ネットワーク上に他の DHCP サーバがある場合は「する」を【←】【→】キーで選択します。「しない」を選択した場合は、IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスをそれぞれ【Enter】キーを押して入力します。ゲートウェイアドレスは省略可能です。
- NetBEUI プロトコルの使用 : NetBEUI プロトコルを使用するかしないかを【←】【→】キーで選択します。
- NWLink IPX/SPX 互換 トランスポートの使用 : NWLink IPX/SPX 互換トランスポートを使用するかしないかを【←】【→】キーで選択します。
- 11) 【PageDown】キーを押します。
次の設定画面が表示されます。



- 12) アプリケーションのインストールを指定します。

電源切断機能 HAL のインストール

：インストールするかしないかを【←】【→】キーで選択します。

電源切断機能 HAL について、詳しくは本体添付マニュアルを参照してください。

Intel LANDesk® Server Manager

：インストールするかしないかを【←】【→】キーで選択します。

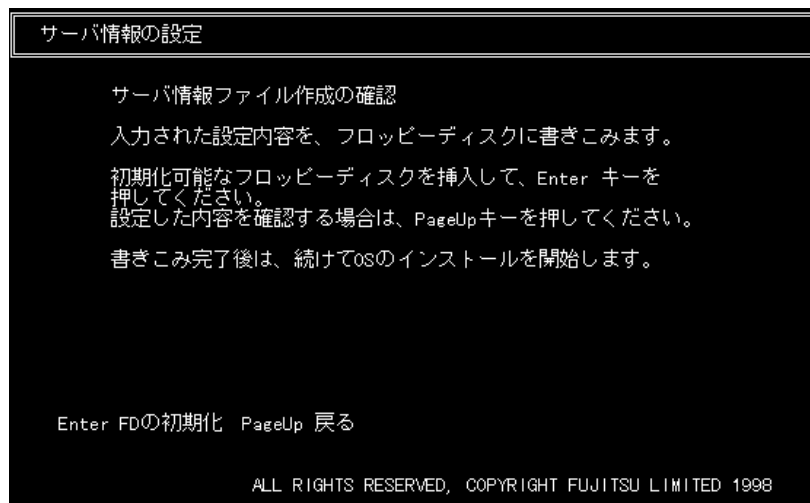
OnePoint

その他の添付アプリケーションに関しては、自動的にインストールされます。

- 13) 【PageDown】キーを押します。

これでサーバの設定は終了です。

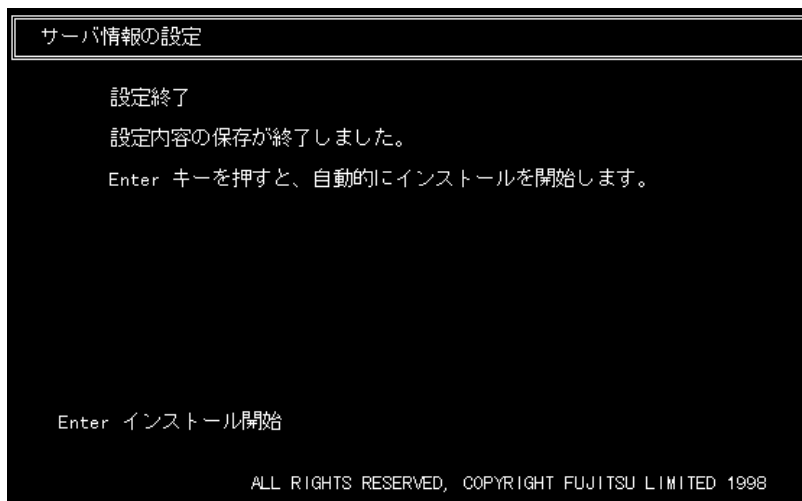
今設定した内容をフロッピーディスクに登録します。



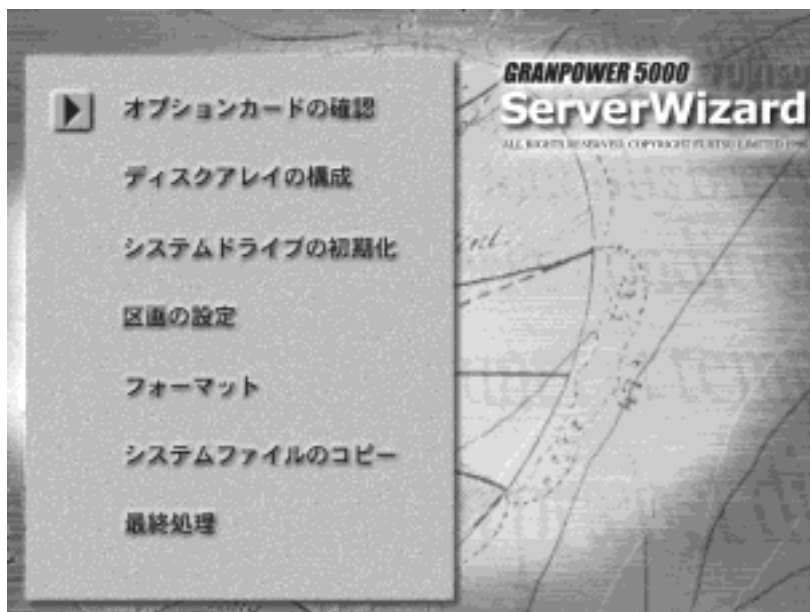
OnePoint

今までの設定を確認する場合は、【PageUp】【PageDown】キーを押すことで各設定画面が表示されます。必要に応じて修正できます。

- 14) 初期化してもよい2HDのフロッピーディスクをセットし【Enter】キーを押します。
フロッピーディスクがフォーマットされ、サーバ情報が"DOSPTNR.SPD"のファイル名で登録されます。
登録が終了すると、設定終了画面が表示されます。



- 15) 【Enter】キーを押します。
セットアップ、およびインストールが開始されます。
以降は、画面の指示に従って操作を行ってください。



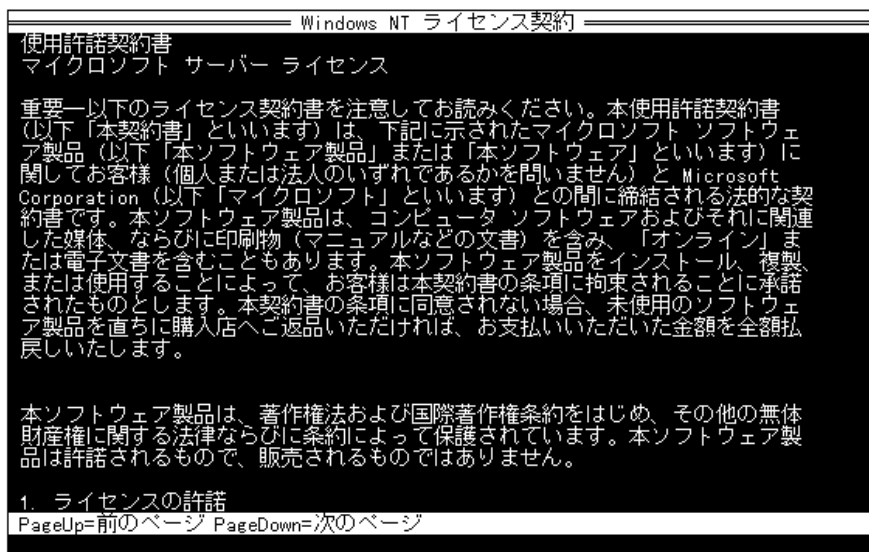
▼注意▼

セットアップ項目の処理が終了するごとに画面がリセット状態になります。すべての処理が終了するまでフロッピーディスクは絶対に抜かないでください。

OnePoint

ディスクアレイの構成とシステムドライブの初期化は、ブートデバイスに RAID を選択した場合のみ表示され、自動的に行われます。

- 16) 「最終処理」でドライバのコピーが終了すると、WindowsNT のライセンス契約の同意画面が表示されます。



- 17) 内容を確認して同意する場合は【F 8】キーを押してください。

WindowsNT のインストールが開始されます。

以降は、画面の指示に従って操作してください。

▼注意▼

ライセンス契約に同意しない場合は【Esc】キーを押します。その場合、処理が終了し、インストールは行われません。

再び ServerWizard によりインストールを行う場合は、最初から操作しなおしてください。

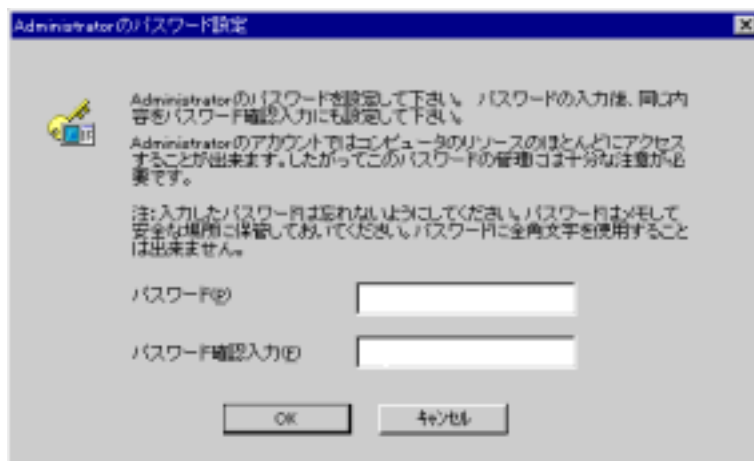
▼注意▼

インストール中、あらかじめ設定した内容（CD キーなど）に誤りがあるとエラー画面が表示されます。正しい値を直接インストール中の画面で入力して処理を続行してください。ただし、ここで修正した内容はサーバ情報ファイルには反映されません。

- 18) インストールが終了すると、パスワード設定の画面が表示されます。

管理者用パスワードを入力し、パスワード確認入力にも同じパスワードを入力します。

パスワードは半角 14 文字以内で入力します。パスワードは必ず設定してください。

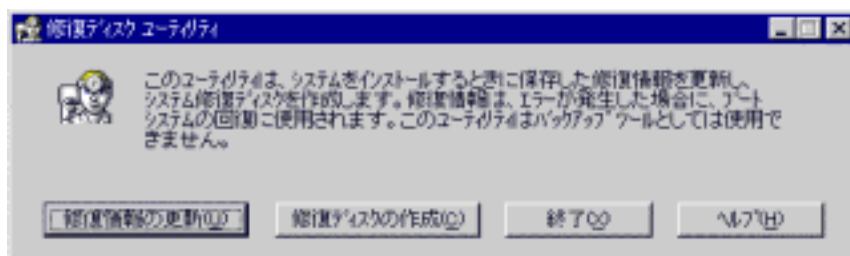


- 19) [OK] をクリックします。

修復ディスクのユーティリティ画面が表示されます。

修復ディスクの作成を選択し、画面の指示に従って操作してください。

修復ディスクの作成には、新しいフロッピーディスクが1枚必要です。



OnePoint

万一、Windows NT システムファイル、システム構成、およびスタートアップ時の環境変数などが損傷を受けた場合は、修復ディスク上に保存した情報を使ってこれらを再構築できます。

システムの修復方法については、添付の『Windows NT Server コンセプトアンドプランニングガイド』等のマニュアルを参照してください。

- 20) すべての処理が終了すると、インストールした OS が起動します。



これでサーバのセットアップ、インストールは終了です。

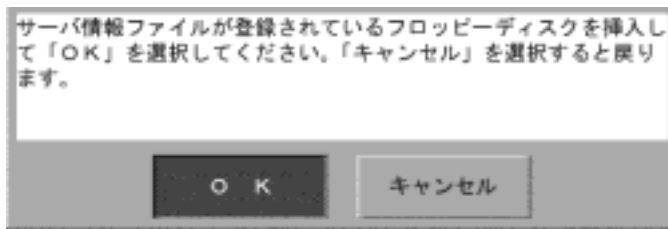
3.4 サーバのセットアップ（読み込み）

すでに DesignMagic など、サーバ情報ファイルがある場合は、サーバ情報ファイルに登録されている設定に従って自動的にセットアップ、インストールが行われます。

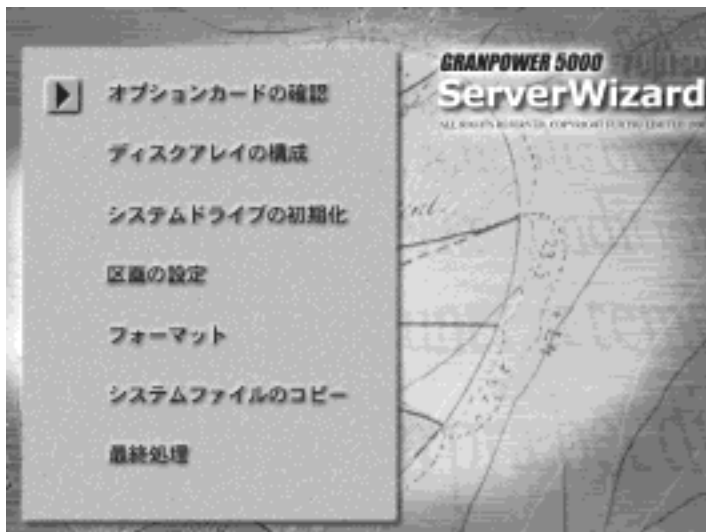
▼ 注意 ▼

セットアップ、インストール途中で、エラーや電源切断などで中断した場合は、必ず最初からセットアップをやり直してください。

- 1) ServerWizard を起動します。
- 2) 「セットアップ」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 3) 「読み込み」を選択し、【Enter】キーを押します。
指示に従ってサーバ情報ファイルの入ったフロッピーディスクを挿入します。



- 4) 【Enter】キーを押します。
サーバ情報ファイルの内容に従ってセットアップ、およびインストールが開始されます。
以降は、画面の指示に従って操作を行ってください。



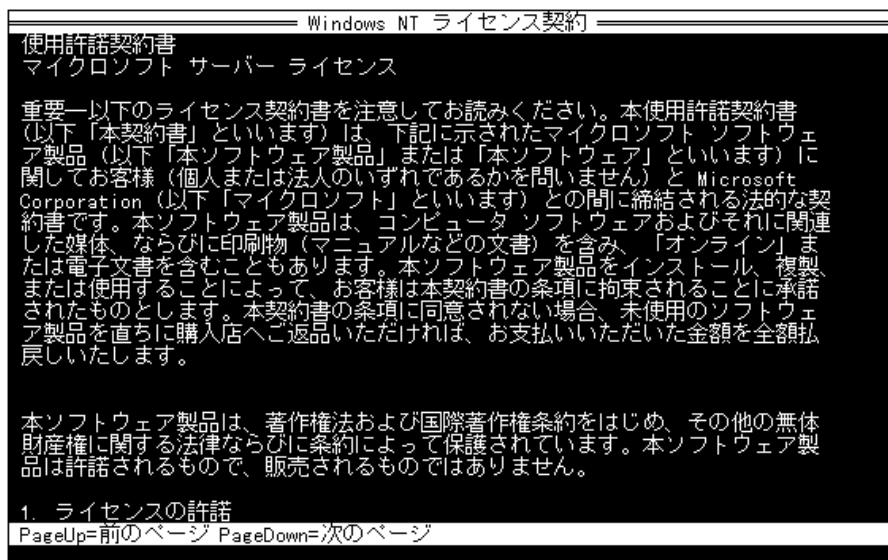
▼注意▼

セットアップ項目の処理が終了するごとに画面がリセット状態になります。すべての処理が終了するまでフロッピーディスクは絶対に抜かないでください。

OnePoint

ディスクアレイの構成とシステムドライブの初期化は、ブートデバイスに RAID を選択した場合のみ表示され、自動的に行われます。

- 5) 「最終処理」でファイルのコピーが終了すると、WindowsNT のライセンス契約の同意画面が表示されます。以降の手順で引き続き操作を行ってください。



- 6) 内容を確認して同意する場合は【F8】キーを押してください。
WindowsNT のインストールが開始されます。
画面の指示に従って操作してください。インストールには時間がかかります。

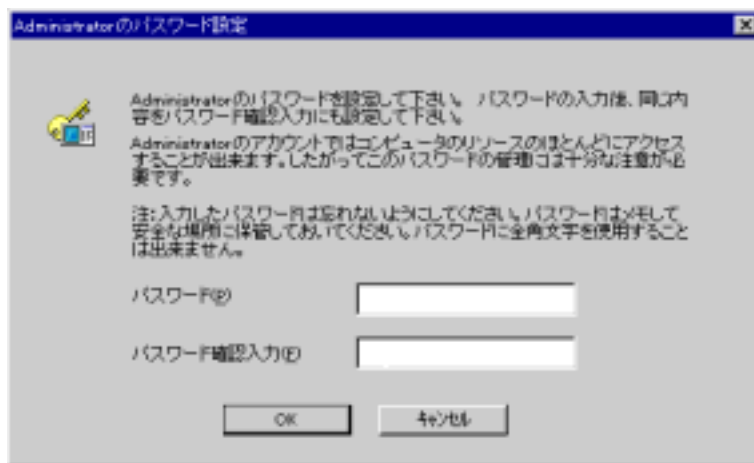
▼注意▼

ライセンス契約に同意しない場合は【Esc】キーを押します。その場合、処理が終了し、インストールは行われません。
再び ServerWizard によりインストールを行う場合は、最初から操作しなおしてください。

▼注意▼

インストール中、あらかじめ設定した内容（CD キーなど）に誤りがあるとエラー画面が表示されます。正しい値を直接インストール中の画面で入力して処理を続行してください。ただし、ここで修正した内容はサーバ情報ファイルには反映されません。

- 7) インストールが終了すると、パスワード設定の画面が表示されます。
管理者用パスワードを入力し、パスワード確認入力にも同じパスワードを入力します。
パスワードは半角 14 文字以内で入力します。パスワードは必ず設定してください。

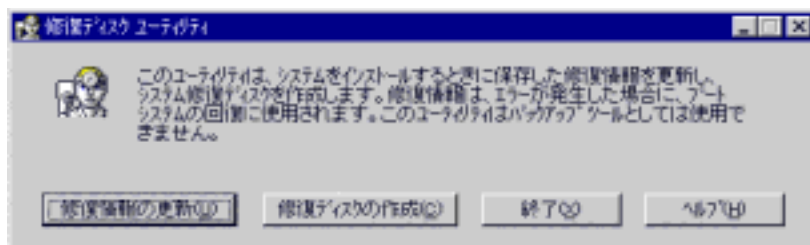


- 8) 「OK」をクリックします。

修復ディスクのユーティリティ画面が表示されます。

修復ディスクの作成を選択し、画面の指示に従って操作してください。

修復ディスクの作成には、新しいフロッピーディスクが1枚必要です。



OnePoint

万一、Windows NT システムファイル、システム構成、およびスタートアップ時の環境変数などが損傷を受けた場合は、修復ディスク上に保存した情報を使ってこれらを再構築できます。

システムの修復方法については、添付の『Windows NT Server コンセプトアンドプランニングガイド』等のマニュアルを参照してください。

- 9) すべての処理が終了すると、インストールした OS が起動します。



これでサーバのセットアップ、インストールは終了です

インストール時に、クライアントシステム設計やクライアントセットアップで登録した項目の設定に失敗した場合はエラーが記録され、表示されます。原因などを確認してください。

3.5 サーバインストール後の処理

3.5.1 インストール後の状態

■ディスプレイの状態

セットアップが終了した時点での、サーバのディスプレイの設定は次の通りです。
お使いのディスプレイにあわせて、設定を変更してください。

WindowsNT の場合	解像度	640×480 ドット/65536 色
	リフレッシュレート	60Hz
SBS の場合	解像度	800×600 ドット/65536 色
	リフレッシュレート	60Hz

※リフレッシュレートは、モニタにより最適値に変更されます。

▼注意▼

AGP のディスプレイドライバの場合は、自動的にインストールされません。OS のインストール後、手動でインストールする必要があります。

■インストールディレクトリ

WindowsNT Server プレインストールモデルの場合には、OS のインストール環境は以下の通りとなります。

システムドライブ	C ドライブ
ドライブの容量	2 GB
アプリケーションドライブ	D ドライブ
ドライブの容量	残り容量にあわせて自動的に作成されます。
ファイルシステム	NTFS
ディレクトリ名	WINNT

3.5.2 WindowsNT セットアップ後の処理

サーバの運用を始める前に、以下の設定を行ってください。

各設定については『WindowsNT Server ファーストステップガイド』を参照してください。

- ・LAN カードを増設する場合、本体に添付の取扱説明書を参照してドライバをインストールしてください。
- ・SCSI 外部オプション装置（ハードディスクキャビネット、光磁気ディスクユニット等）を接続する場合、本体に添付の取扱説明書を参照して接続してください。
- ・インストールした添付アプリケーションの設定を、各アプリケーションの取扱説明書を参照して行ってください。

3.5.3 SBS 4.0 インストール後の注意事項

- WindowsNT Service Pack について
SBS 4.0 は WindowsNT Service Pack が適用されています。SBS 4.0 には、WindowsNT Service Pack を絶対にインストールしないでください。誤動作の原因になります。
- FAX モデムカードを使用する COM ポートの設定について
SBS 4.0 インストール直後は、FAX モデムカードは COM1 を使用するよう設定されています。COM1 以外の COM ポートを使用する場合は、いったん FAX モデムカードを削除し、使用する COM ポートを追加設定し、再度 FAX モデムカードを追加してください。また、FAX プリンタを使用する場合も、FAX モデムカードと同様に FAX プリンタをいったん削除してから、追加してください。
以下に、COM ポートの追加設定方法を示します。
 1. 「コントロールパネル」から「シリアルポート」を選択します。
現在使用できるシリアルポートの一覧が表示されます。
 2. 「追加(A)...」を選択します。
「新しいポートの詳細設定」画面が表示されます。
 3. I/O ポートアドレス、割り込み番号 (IRQ) を正しく設定し、[OK] をクリックします。
ICU で設定した値および FAX モデムカードに設定した値と合わせます。
 4. 再起動するかどうかのメッセージが表示されますので、「再起動する」を選択し、再起動します。

FAX モデムおよび FAX プリンタの追加／削除方法の詳細については、SBS 管理コンソールのオンラインガイドで、FAX の項目を参照してください。

3.5.4 管理ソフトウェアのインストール（アレイタイプのみ）

インストールタイプの RAID カードが搭載されているモデルで、導入種別を「プレインストールモデル」に指定した場合は、SCSI アレイコントローラカードの管理ソフトウェアはインストールされません。サーバ本体または RAID カードに添付の取扱説明書を参照して、管理ソフトウェアをインストールしてください。

3.5.5 WindowsNT Server の再インストール（インストールタイプの場合）

インストールタイプの場合に、インストール途中で失敗した場合は、WindowsNT Server の再インストールが必要です。プレインストールの状態ではなくなるので、「導入種別」で「新規インストール」を選択し、再度インストールを行ってください。

▼注意▼

サーバをインストール途中で失敗した場合は、再インストールの必要があります。ただし、インストールで使用していたサーバ情報ファイルは、サーバの再インストール時に使用できません。一度フロッピーディスクを初期化して最初からやり直してください。

3.6 バックアップディスクの作成

ServerWizard の CD-ROM には、サーバ本体に標準添付されているバックアップディスク、各種デバイスに添付されるドライバディスク、アプリケーションが収められており、バックアップディスクが簡単に作成できます。

作成するバックアップディスクの枚数分、新しいフロッピーディスク（2HD）が必要です。

添付アプリケーションは ServerWizard でインストールし、使用することができます。また、サーバのインストール後、手動で ServerWizard の CD-ROM からインストールすることもできます。添付アプリケーションのインストールについては『付録 C 添付アプリケーションのインストール』を参照してください。

- 1) ServerWizard を起動します。
- 2) 「ユーティリティ」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 3) 「FD 作成」を選択し、【Enter】キーを押します。
バックアップディスク作成ツールの画面が表示されます。
画面は機種ごとに異なります。

（GRANPOWER5000 モデル 180 の例）



- 4) 作成するバックアップディスクを選択し、【Enter】キーを押します。
メッセージに従ってフロッピーディスクをドライブAにセットしてください。
- 5) 【Enter】キーを押します。ファイルのコピーが開始されます。
バックアップディスクの作成が終了すると、バックアップディスク作成ツールの画面に戻ります。
引き続きバックアップディスクを作成する場合は、手順4)、5)を繰り返してください。
【Esc】キーを押すと FD 作成を終了し、ServerWizard 画面に戻ります。

OnePoint

サーバ機種によって画面および作成できるフロッピーは異なります。

第 4 章 WizardConsole

WizardConsole は、ServerWizard によりサーバをセットアップ、インストールした後で、クライアントの情報を更新したり、クライアントセットアップ機能を設定するためのプログラムです。

4.1 WizardConsole の起動

- 1) 「スタート」をクリックし、「プログラム」の「ServerWizard」から「WizardConsole」を選択します。

WizardConsole が起動します。



WizardConsole の機能一覧

[クライアント情報の追加/変更]

：ユーザ、グループ、共有資源に関する情報を追加、変更します。追加、変更した情報は、クライアントシステム設計画面で関連付けを行います。

[コンピュータの追加/変更]

：クライアントとなるコンピュータの情報を追加、変更します。

[クライアント導入フロッピーの作成]

：WizardConsole クライアントをインストールするためのフロッピーディスクを作成します。

[サーバ情報ファイルの作成]

： WizardConsole で変更した情報を、サーバ情報ファイルに登録または更新します。

[クライアントセットアップ]

： クライアントにインストールする資源の設定／情報確認を行います。ただし、DesignMagic の [クライアントセットアップ] で「クライアントセットアップ機能を使用する」を指定した場合のみ表示されます。

[クライアントセットアップ動作環境]

： クライアントセットアップの動作環境を設定します。ただし、DesignMagic の [クライアントセットアップ] で「クライアントセットアップ機能を使用する」を指定した場合のみ表示されます。

[終了]

： WizardConsole を終了します。

[ヘルプ] メニュー

[トピックの検索] 　： WizardConsole のヘルプが表示されます。ヘルプには、各設定画面の説明が書かれています。必要に応じて参照してください。

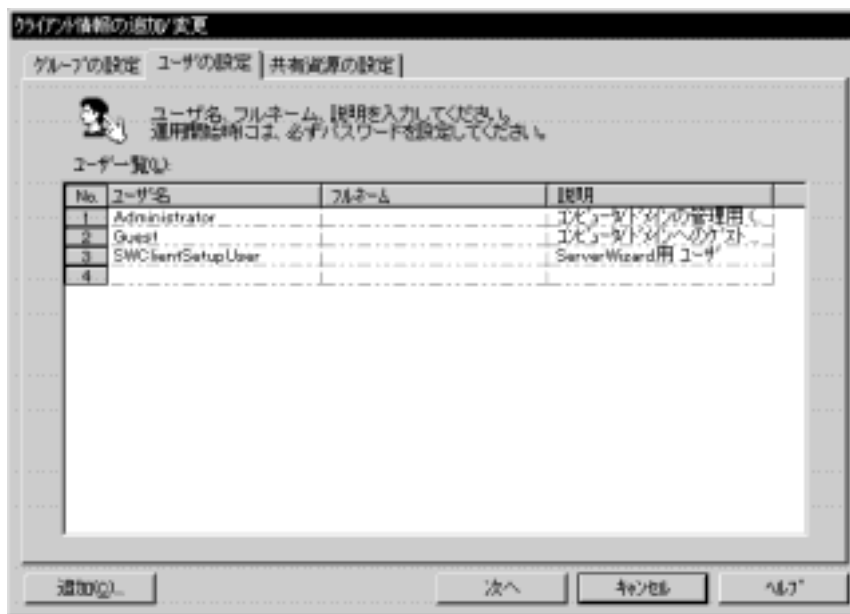
[バージョン情報] 　： WizardConsole のバージョン情報が表示されます。

4.2 クライアント情報の追加／変更

▼注意▼

WizardConsole では、現在登録されているクライアント情報を表示します。ここでの変更内容は即時に反映されるので、情報を変更する場合は十分注意してください。

- 1) [クライアント情報の追加／変更] をクリックします。
クライアント情報の追加／変更画面が表示され、[ユーザの設定] タブ画面が表示されます。



各タブをクリックすることで、「ユーザの設定」、「グループの設定」、「共有資源の設定」画面に切り替わります。また、[次へ] をクリックすると、クライアントシステムの関連付けを変更することができます。

4.2.1 ユーザ情報の追加／変更

- 1) ユーザの情報を設定します。
新規にユーザを追加する場合は、[追加] をクリックします。
ユーザの追加画面が表示されます。

- 2) 追加するユーザの情報を設定します。

ユーザ名	: コンピュータ上のユーザ名を入力します。半角 20 文字以内で入力してください。 "/, ¥=+<>;*? [:] の 15 種類の文字は使用できません。また、すでに入力されているグループ名およびユーザ名と同じ名前は使用できません。
フルネーム	: ユーザのフルネームを入力します。半角 64 文字以内で入力してください。省略できます。
説明	: ユーザに対する説明を入力します。半角 48 文字以内で入力してください。省略できます。
パスワード	: ログイン時のパスワードを設定します。半角 14 文字以内で入力してください。全角文字は入力できません。ここで設定したパスワードは、ユーザがサーバログイン時に任意に変更できます。
確認入力	: 「パスワード」で入力した文字列を、確認のために再度入力します。

次回ログイン時に変更する

：設定したパスワードをユーザが次回サーバ接続時に変更する場合にチェックします。

パスワードを変更できない

：ここで設定したパスワードを固定し、変更できないようにする場合にチェックします。

パスワードを無期限にする

：ここで設定したパスワードを、無期限に利用できる場合にチェックします。

アカウントを無効にする

：アカウントを無効にする場合にチェックします。

- 3) 「追加」をクリックします。
ユーザの情報が追加されます。続けて追加するユーザの情報を設定できます。
- 4) すべてのユーザの追加が終わったら「閉じる」をクリックします。
クライアント情報の追加／変更画面に戻ります。

OnePoint

・ユーザ情報の変更

変更するユーザをクリックして「変更」をクリックするか、変更するユーザをダブルクリックします。

ユーザの変更画面が表示されます。設定を変更し「OK」をクリックします。

・ユーザの削除

削除するユーザを右クリックし、「削除」を選択します。

▼注意▼

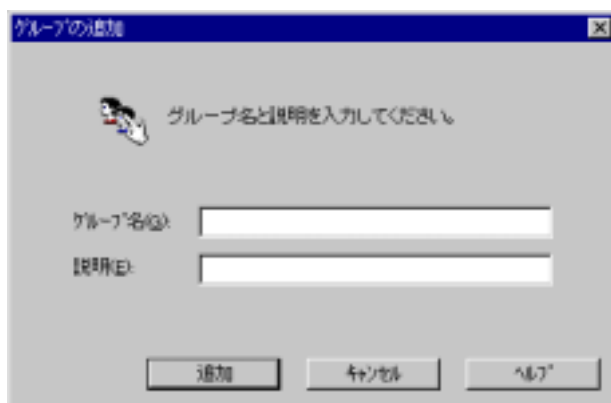
256 件を超えてユーザを登録した場合、操作は続行できますが、サーバ情報ファイルには、256 件までしか登録されません。

4.2.2 グループ情報の追加／変更

- 1) 「グループの設定」タブをクリックします。
「グループの設定」タブ画面が表示されます。



- 2) グループの情報を設定します。
新規にグループを追加する場合は、「追加」をクリックします。
グループの追加画面が表示されます。



- 3) 追加するグループの情報を設定します。
グループ名 : ユーザグループ名を入力します。
半角 20 文字以内で入力してください。|"/, ¥=+<>;*? [:] の 15 種類の文字は使用できません。すでに入力されているグループ名およびユーザ名と同じグループ名は使用できません。WindowsNT であらかじめ予約されているグループ(Domain Admins、Domain Guests、Domain Users)は作成できません。
説明 : 作成したグループに対する説明を入力します。半角 64 文字以内で入力してください。省略できます。

- 4) [追加] をクリックします。
グループの情報が追加されます。続けて追加するグループを設定できます。
- 5) すべてのグループの追加が終わったら [閉じる] をクリックします。
クライアント情報の追加／変更画面に戻ります。

OnePoint

- ・グループ情報の変更
変更するグループをクリックして [変更] をクリックするか、変更するグループをダブルクリックします。
グループの変更画面が表示されます。設定を変更し [OK] をクリックします。
- ・グループの削除
削除するグループを右クリックし、[削除] を選択します。

▼注意▼

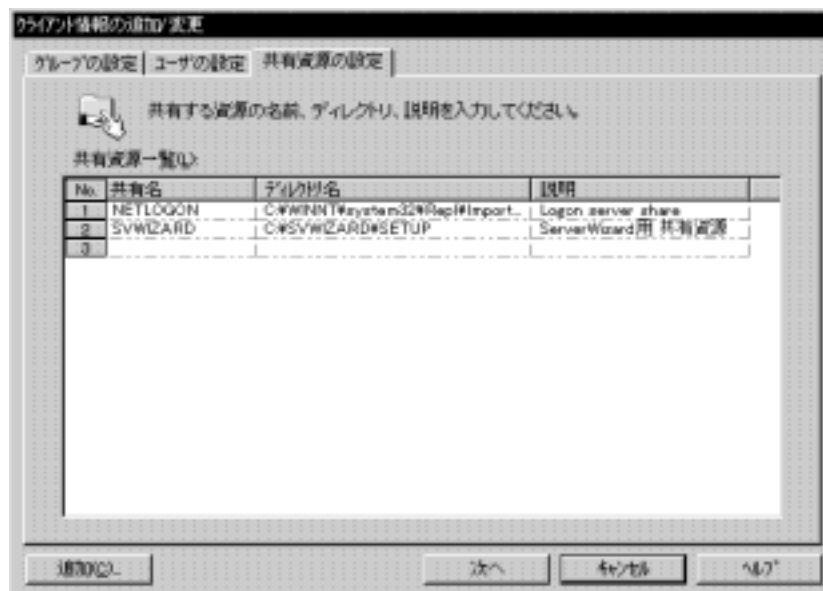
256 件を超えてグループを登録した場合、操作は続行できますが、サーバ情報ファイルには、256 件までしか登録されません。

▼注意▼

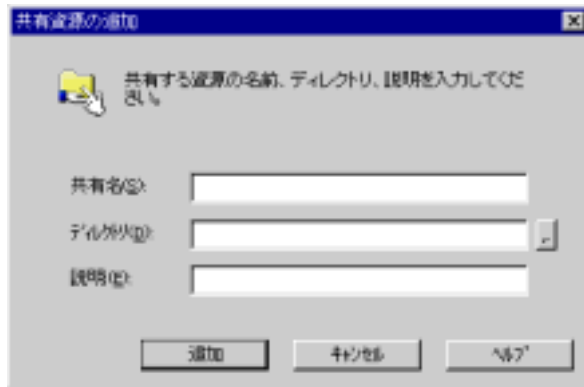
WindowsNT の「スタート」－「管理ツール」の「ユーザマネージャ」および「サーバマネージャ」を使用して変更したユーザ、グループ、共有資源の情報は、正常に反映されない場合があります。

4.2.3 共有資源フォルダの追加／変更

- 1) [共有資源の設定] タブをクリックします。
[共有資源の設定] タブ画面が表示されます。



- 2) 共有資源の情報を設定します。
新規にグループを追加する場合は、[追加] をクリックします。
共有資源の追加画面が表示されます。



- 3) 追加する共有資源の情報を設定します。
- | | |
|--------|--|
| 共有名 | : 共有するディスク資源を入力します。半角 80 文字以内で入力してください。 "/, ¥=+<>;*? [:] の 15 種類の文字は使用できません。
ServerWizard であらかじめ予約されている共有名(SVWIZARD)は使用できません。8.3 形式(xxxxxxxx.xxx)以上の長さで入力した場合は、MS-DOS のワークステーションから共有できない可能性があります。 |
| ディレクトリ | : 共有する資源のディレクトリ名を入力します。半角 246 文字まで入力できます。"/: ?<>* ¥ の 9 種類の文字は使用できません。
絶対パスで入力してください。[...] ボタンをクリックして、ディレクトリ一覧から選択することもできます。 |
| 説明 | : 共有資源に対する説明を入力します。半角 48 文字以内で入力してください。省略できます。 |
- 4) [追加] をクリックします。
共有資源の情報が追加されます。続けて追加する共有資源を設定できます。
- 5) すべての共有資源の追加が終わったら [閉じる] をクリックします。
項目の追加/変更画面に戻ります。

OnePoint

- 共有資源情報の変更
変更する共有資源をクリックして [変更] をクリックするか、変更する共有資源をダブルクリックします。
共有資源の変更画面が表示されます。設定を変更し [OK] をクリックします。
- 共有資源の削除
削除する共有資源を右クリックし、[削除] を選択します。

▼注意▼

32 件を超えて共有資源を登録した場合、操作は続行できますが、サーバ情報ファイルには、32 件までしか登録されません。

▼注意▼

共有資源の"SVWIZARD"とユーザ名の"SWClientSetupUser"は、ServerWizard でクライアントコンピュータの登録に使用するために作成されます。
インターネット等の他のネットワークに接続しているサーバでは、セキュリティ確保のため、ClientWizard ですべてのクライアントに登録が終了したら削除してください。

4.2.4 クライアントシステム設計

- 1) クライアント情報の追加／変更画面で「次へ」をクリックします。
クライアントシステム設計画面が表示されます。



- 2) 現在のサーバの設定情報が表示されます。
各タブをクリックし、追加、変更したユーザ、グループ、共有資源に対して、関連付けを設定してください。
[ユーザとグループ] タブ
：グループごとに所属するユーザを設定します。
グループ
：横項目にユーザグループの作成画面で作成したグループ名が表示されます。
ユーザ
：ユーザ欄にユーザ名が表示されます。ユーザごとに、所属するグループを設定します。欄をクリックするとチェックマークが付き、グループに設定されます。各欄をクリックして右下隅をドラッグすると、ドラッグした範囲内を一度に設定できます。

[グループと共有資源] タブ

: グループで利用できる共有資源を設定します。

共有資源 : 横項目に共有資源の作成画面で作成した共有資源名が表示されます。

グループ : グループ欄にグループ名が表示されます。グループごとに、使用する共有資源を設定します。欄をクリックすると選択されているアクセス権が設定されます。各欄をクリックして右下隅をドラッグすると、ドラッグした範囲内を一度に設定できます。

[ユーザと共有資源] タブ

: ユーザが利用できる共有資源を設定します。

共有資源 : 横項目に共有資源の作成画面で作成した共有資源名が表示されます。

ユーザ : ユーザ欄に、ユーザ名が表示されます。ユーザごとに、使用する共有資源を設定します。欄をクリックすると選択されているアクセス権が設定されます。各欄をクリックして右下隅をドラッグすると、ドラッグした範囲内を一度に設定できます。

構成一覧を表示 : グループ、ユーザ、共有資源を構成する一覧を表示する場合にチェックします。共有資源に対するアクセス権を選択します。



構成一覧は、「グループ」タブ、「ユーザ」タブ、「共有」タブを切り替えることで、一覧の内容が切り替わります。

構成一覧表に表示されているアイコンは次のとおりです。

-  作成したグループを表しています。
-  作成したユーザを表しています。
-  作成した共有資源を表しています。

[最新情報に更新] ボタン

: 構成一覧の表示内容を設定されている最新の情報に更新します。このボタンをクリックすると設定を追加、変更した内容が構成一覧に反映されます。

- アクセス権 : 共有資源に対して設定するアクセス権の種類が表示されます。[▼]をクリックして設定するアクセス権を変更できます。
- フルコントロール : すべての操作が行えます。
- 変更のみ : 変更のみ行えます。
- 読込みのみ : 読込みのみ行えます。書き込みはできません。
- アクセス権なし : アクセスすることはできません。

●クライアントシステム設計画面のツールバー

「表示」メニューの「ツールバー」表示が有効の場合、以下のアイコンが表示されます。

[グループの設定] アイコン



: グループを設定する場合にクリックします。グループの設定画面が表示されます。

[ユーザの設定] アイコン



: ユーザを設定する場合にクリックします。ユーザの設定画面が表示されます。

[共有資源の設定] アイコン



: 共有資源を設定する場合にクリックします。共有資源の設定画面が表示されます。

[適用] アイコン : クライアントシステム設計画面での設定を有効にします。このアイコン



をクリックしないと、ここでの設定は反映されません。

[ヘルプ] アイコン : 画面の説明が表示されます。



●クライアントシステム設計画面のメニュー

クライアントシステム設計画面には、次のメニューがあります。

「設定」メニュー

- [追加／変更] : 追加変更には、次のサブメニューがあります。
- [グループ] : グループ情報を追加または変更します。
- [ユーザ] : ユーザ情報を追加または変更します。
- [共有資源] : 共有資源情報を追加または変更します。
- [アクセス権選択] : 表示されたサブメニューからアクセス権を選択します。
- [フルコントロール] : すべての操作が行えます。
- [変更のみ] : 変更のみ行えます。
- [読込みのみ] : 読込みのみ行えます。書き込みはできません。
- [アクセス権なし] : アクセスすることはできません。
- [適用] : クライアントシステム設計で設定した内容を反映します。
- [終了] : クライアントシステム設計を終了します。

「表示」メニュー

- [ツールバー] : ツールバーの表示、非表示を切り替えます。
- [ステータスバー] : ステータスバーの表示、非表示を切り替えます。
- [構成一覧] : 構成一覧の表示、非表示を切り替えます。

[構成一覧のキー]

: 構成一覧を表示にした場合に有効になります。次のサブメニューが表示されます。

[グループ] : 構成一覧を登録されているグループで表示します。

[ユーザ] : 構成一覧を登録されているユーザで表示します。

[共有資源] : 構成一覧を登録されている共有資源で表示します。

[構成一覧の更新]

: 構成一覧の表示内容を設定されている最新の情報に更新します。

[設定] : 関連付けを行う項目を切り替えます。次のサブメニューが表示されます。

[ユーザとグループ] : ユーザが所属するグループを設定します。

[グループと共有資源] : グループが使用する共有資源を設定します。

[ユーザと共有資源] : ユーザが使用する共有資源を設定します。

▼注意▼

クライアントシステム設計での設定を反映するには、[適用]をクリックするか、「設定」メニューの「適用」を選択してください。

「終了」のみ行った場合は、ユーザ、グループ、共有資源の追加／変更は反映されますが、クライアントシステム設計で設定した関連付けは反映されません。

- 3) 「設定」メニューから「終了」を選択します。

WizardConsole 画面に戻ります。

4.3 クライアントコンピュータの追加／変更

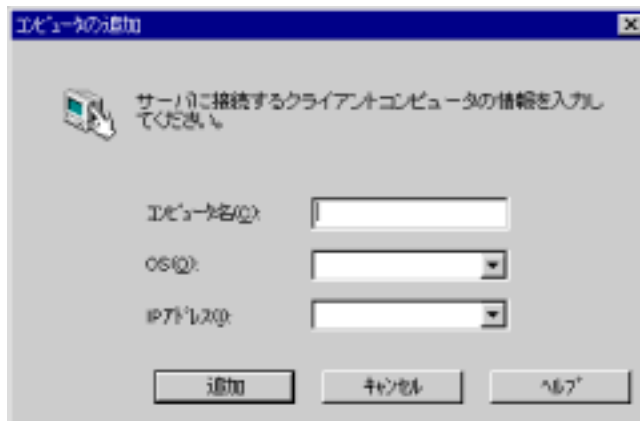
▼注意▼

WizardConsole では、現在登録されているクライアント情報を表示します。ここでの変更内容は即時に反映されるので、情報を変更する場合は十分注意してください。

- 1) 「コンピュータの追加／変更」をクリックします。
コンピュータの設定画面が表示されます。



- 2) コンピュータの情報を設定します。
新規にコンピュータを追加する場合は、「追加」をクリックします。
コンピュータの追加画面が表示されます。



- 3) 追加するコンピュータの情報を設定します。
- コンピュータ名 : クライアントのコンピュータ名を入力してください。
半角 15 文字以内で入力してください。|"/, ¥=+<>;*? [:]
の 15 種類の文字は使用できません。サーバと同じコンピュータ名は使
用できません。
- OS : クライアントのコンピュータで使用する OS を選択します。
- IP アドレス : クライアントコンピュータの IP アドレスの設定方法を選択します。
「手動設定」の場合、IP アドレスをコントロールパネルで手動で設定
してください。
「DHCP」の場合、DHCP サーバが IP アドレスを自動的に割り当てま
す。
- 4) 「追加」をクリックします。
コンピュータの情報が追加されます。続けて追加するコンピュータを設定できます。
- 5) すべてのコンピュータの追加が終わったら「閉じる」をクリックします。
コンピュータアカウントの画面に戻ります。

OnePoint

- コンピュータの変更
変更するコンピュータをクリックして「変更」をクリックするか、変更するコンピュータをダブルクリックします。
コンピュータの変更画面が表示されます。設定を変更し「OK」をクリックします。
- コンピュータの削除
削除するコンピュータを右クリックし、「削除」を選択します。

▼注意▼

256 件を超えてクライアントコンピュータを登録した場合、操作は続行できますが、サーバ情報ファイルには、256 件までしか登録されません。

▼注意▼

WindowsNT の「スタート」－「管理ツール」の「サーバマネージャ」により追加したコンピュータは、サーバ情報ファイルには登録されない場合があります。

- 6) [次へ] をクリックします。
クライアント導入フロッピーディスクの作成画面が表示されます。



- 7) クライアント導入フロッピーディスクを作成します。
作成方法については、『4.4 クライアント導入フロッピーの作成』を参照してください。
クライアント導入フロッピーディスクを作成しない場合は、[キャンセル] をクリックします。
WizardConsole 画面に戻ります。

OnePoint

デフォルトではフロッピーに登録していない全クライアントが対象となります。
一度クライアント導入フロッピーディスクに登録したクライアントの OS の種別を変更した場合（たとえば、Windows95 から Windows98 に変更）も、フロッピーに登録していないコンピュータとして表示されます。クライアントで OS をアップグレードインストールではなく、新規インストールした場合は再度クライアント導入フロッピーディスクを作成し、ClientWizard によりセットアップし直すこともできます。クライアント導入フロッピーディスクは、[クライアント導入フロッピーの作成] でも作成できます。

▼注意▼

クライアントコンピュータの追加を行った場合、追加したクライアントにアプリケーションやファイルをインストールする際に、クライアントセットアップ画面から次の操作を行ってください。

- ・セットアップ資源がまだ取り込まれていない場合は、セットアップ資源の取り込み画面からセットアップ資源の取り込みを行ってください。
- ・セットアップ資源がすでに取り込まれている場合は、セットアップ指示の追加画面からセットアップ資源と追加クライアントを選択して、追加処理を行ってください。

4.4 クライアント導入フロップピーの作成

クライアントをセットアップするためのクライアント導入フロップピーディスクを作成します。

■クライアント導入フロップピーの作成方法

クライアント導入フロップピーの作成方法には、次の2つの方法があります。

- ・ 1枚のクライアント導入フロップピーディスクに、全クライアントの導入ファイルを作成し、順次クライアントをセットアップしていきます。
- ・ クライアントごとに1枚のクライアント導入フロップピーを作成し、各クライアントを同時にセットアップします。

ご利用形態にあわせて作成してください。

■クライアント導入フロップピーの作成手順

- 1) 「クライアント導入フロップピーの作成」をクリックします。
クライアント導入フロップピーディスクの作成画面が表示されます。



- 2) クライアント導入フロッピーに登録するコンピュータを選択します。
- 登録していないコンピュータをすべて選択
：クライアント情報ファイルを作成していないコンピュータをすべて選択し、フロッピーディスクに登録します。
- 一覧から選択
：表示されているコンピュータ一覧から、クライアントとして登録するコンピュータ名を選択します。複数のコンピュータを選択できます。表示されている項目は以下の通りです。
- コンピュータ名
：クライアントコンピュータ名が表示されます。
コンピュータ名の先頭のアイコンは以下の意味を表しています。
 登録用フロッピーディスクがまだ作成されていません。
 登録用フロッピーディスクが作成済みです。
 すでにコンピュータの登録が完了している可能性があります。
- OS
：クライアントコンピュータの OS が表示されます。
- IP アドレス
：クライアントコンピュータの IP アドレスが表示されます。
「手動設定」の場合、IP アドレスをコントロールパネルで手動で設定します。
「DHCP」の場合、IP アドレスを DHCP サーバが自動的に設定します。
- 登録済みのコンピュータも表示する
：チェックすると、すでに登録用フロッピーディスクを作成したコンピュータもすべて表示します。
- 3) [OK] をクリックします。
クライアント情報ファイルの作成画面が表示されます。
- 4) フロッピーディスクをセットし、[OK] をクリックします。
クライアント情報ファイルが作成され、フロッピーディスクに登録されます。登録が終了すると WizardConsole 画面に戻ります。

OnePoint

初期化されていないフロッピーディスクの場合は「初期化する」をクリックし、フロッピーディスクを初期化します。ただし、フォーマットを実行しても、不良セクタがある場合はそのフロッピーディスクは使用しないでください。

4.5 サーバ情報ファイルの作成

WizardConsole で追加、変更したサーバ情報ファイルをフロッピーディスクまたはハードディスクに保存します。

サーバ情報ファイルは、別のサーバ構築時に使用できます。

▼注意▼

パスワード、サーバの IP アドレス、添付アプリケーションの設定等、運用中に更新・変更されたサーバの情報は、サーバ情報ファイルに保存されません。そのため、システムのバックアップには使用できません。
システムのバックアップは、専用のソフトウェアを使用して定期的に行ってください。

- 1) 「サーバ情報ファイルの作成」をクリックします。
ファイル名を付けて保存画面が表示されます。
- 2) サーバ情報ファイルの保存先を指定し、MS-DOS のファイル名の規約に従ってファイル名を入力します。
拡張子は".SPD"です。
- 3) 「保存」をクリックします。
サーバ情報ファイルが作成され、WizardConsole 画面に戻ります。

▼注意▼

- WindowsNT WS 4.0 のクライアントコンピュータをご使用の場合は、SID が異なるためサーバのみ再インストールを行っても、クライアントコンピュータをサーバに接続できません。
- WizardConsole で作成したサーバ情報ファイルは、ServerWizard のセットアップ（読み込み）では使用できません。必ず DesignMagic を起動し、「ファイル」メニューの「開く」で、作成したサーバ情報ファイルの内容を確認し、適切に修正して保存しなおしてご使用ください。
- WindowsNT および ServerWizard で予約されているグループ（Domain Admins、Domain Guests、Domain Users）、ユーザ（Administrator、Guest、SWClientSetupUser）、共有資源（SVWIZARD）の設定を変更した場合、サーバを再インストールしても設定は変更されません。再インストール後、WizardConsole で設定しなおしてください。

4.6 クライアントセットアップ

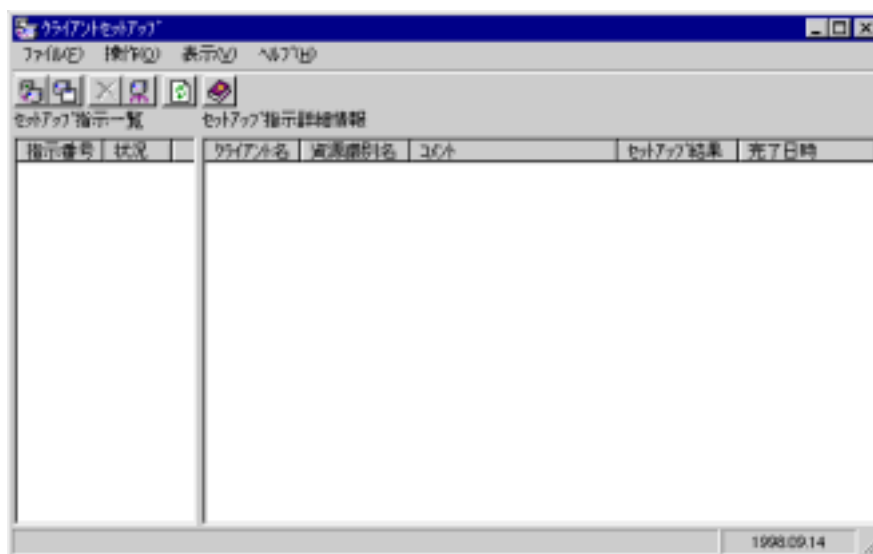
クライアントにインストールする資源の設定、状況確認を行います。

▼注意▼

サーバでクライアントセットアップ関連の機能が動作中の場合、クライアントセットアップサービス（Client Setup Server）を停止しないでください。
資源の取り込み処理中にサービスを停止した場合、ハードディスク上に処理中の資源が残ることがあります。

4.6.1 クライアントセットアップ情報の設定

- 1) 「クライアントセットアップ」をクリックします。
クライアントセットアップ画面が表示されます。



「セットアップ指示一覧」

- 指示番号 : セットアップの状況が表示されます。
: セットアップ単位で自動的に採番された指示番号が表示されます。指示番号の先頭に表示されるアイコンは以下の状態を表しています。
- ☐ 指示が未完了である。
 - ☒ 指示は完了している。
- 状況 : セットアップの状況が表示されます。セットアップの実行が、完了している場合は「完了」、完了していない場合は「未完了」と表示されます。

「セットアップ指示詳細情報」

- クライアント名 : クライアントに対するセットアップの状況が表示されます。
: セットアップ先のクライアント名が表示されます。クライアント名の先頭に表示されるアイコンは以下の状態を表しています。
-  セットアップの実行が完了しています。
 -  セットアップの実行が完了していません。
 -  セットアップの実行中です。
 -  セットアップの実行が異常終了しています。
- 資源識別名 : セットアップ資源の識別名が表示されます。
コメント : セットアップ指示における任意の付加情報が表示されます。
セットアップ結果 : 各クライアントへの配付の状況が表示されます。
- 「完了」 : セットアップの実行が完了しています。
 - 「未完了」 : セットアップの実行が完了していません。
 - 「実施中」 : セットアップの実行中です。
 - 「異常」 : セットアップの実行が異常終了しています。
- 完了日時 : セットアップの実施の完了日が表示されます。

●クライアントセットアップ画面のツールバー



[セットアップ資源の取り込み] アイコン

：クライアントにインストールする資源を取り込みます。



[セットアップ資源の削除] アイコン

：セットアップ資源を削除します。



[セットアップ指示の削除] アイコン

： セットアップ指示を削除します。



[セットアップ指示の追加] アイコン

：セットアップ資源を、どのクライアントにインストールするかの指示を追加します。



[最新の情報に更新] アイコン

：表示中のデータを、最新の情報で表示します。



[ヘルプ] アイコン

：ヘルプを起動します。

●クライアントセットアップ画面のメニュー

「ファイル」メニュー

[終了] ；クライアントセットアップを終了します。

「操作メニュー」

[セットアップ資源の取り込み]

：クライアントにインストールする資源を取り込みます。

[セットアップ資源の削除]

：セットアップ資源を削除します。

[セットアップ指示の削除]

：セットアップ指示を削除します。

[セットアップ指示の追加]

：セットアップ資源を、どのクライアントにインストールするかの指示を追加します。

「表示」メニュー

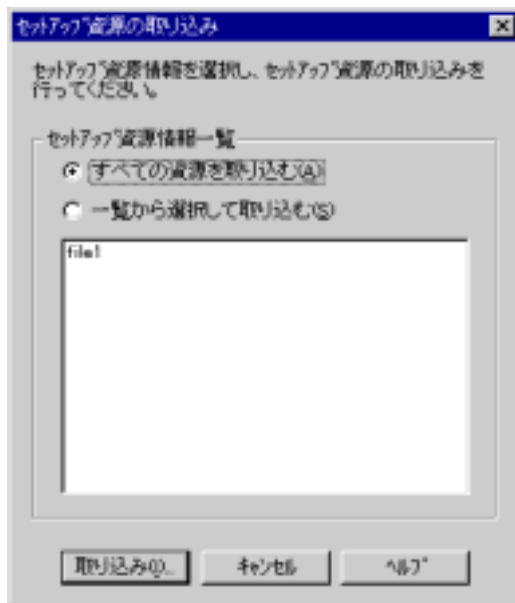
[ツールバー] ；ツールバーの表示、非表示を切り替えます。

[ステータスバー] ；ステータスバーの表示、非表示を切り替えます。

[最新の情報に更新] ；表示中のデータを、最新の情報で表示します。

4.6.2 セットアップ資源を取り込む

- 1) ツールバーの「セットアップ資源の取り込み」をクリックするか、「操作」メニューから「セットアップ資源の取り込み」を選択します。
セットアップ資源の取り込み画面が表示されます。



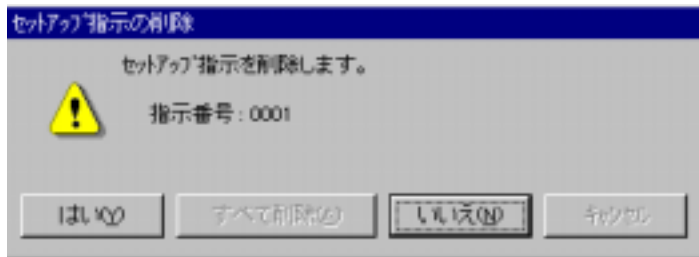
- 2) 取り込み方法を指定します。
すべての資源を取り込む
：セットアップ資源情報一覧に表示されているセットアップを、一度にすべて取り込みます。
一覧から選択して取り込む
：セットアップ資源情報一覧に表示されているセットアップ資源を選択して取り込みます。
- 3) 「取り込み」をクリックします。
セットアップ資源の取り込みが開始されます。
セットアップ資源の取り込みが終了すると、クライアントセットアップ画面に戻ります。

4.6.3 セットアップ指示の編集

■セットアップ指示を削除する

- 1) セットアップ指示一覧の指示番号から、削除する番号を選択します。

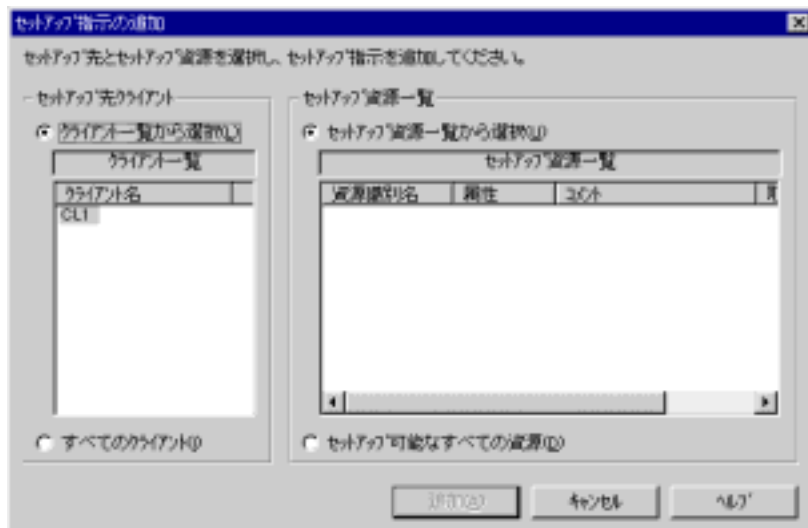
- 2) ツールバーの「セットアップ指示の削除」をクリックするか、「操作」メニューから「セットアップ指示の削除」を選択します。
確認の画面が表示されます。



- 3) 「はい」をクリックします。
セットアップ指示が削除され、クライアントセットアップ画面に戻ります。

■セットアップ指示を追加する

- 1) ツールバーの「セットアップ指示の追加」をクリックするか、「操作」メニューから「セットアップ指示の追加」を選択します。
セットアップ指示の追加画面が表示されます。



- 2) セットアップ先クライアントを指定します。
クライアント一覧から選択を指定した場合は、表示されているクライアント一覧から、セットアップ先のクライアントを選択してください。
複数のクライアントを選択できます。
- 3) セットアップする資源を選択します。
セットアップ資源一覧から選択を指定した場合は、表示されているセットアップ資源一覧から、セットアップする資源を選択します。
複数の資源を選択できます。
- 4) 「追加」をクリックします。
セットアップ情報が登録され、メッセージが表示されます。

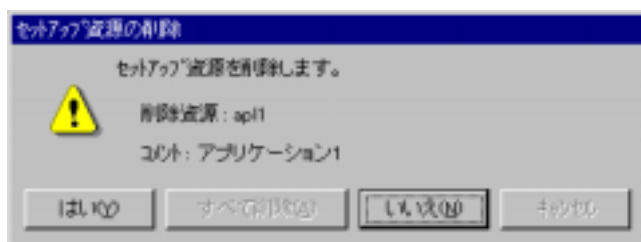
- 5) [OK] をクリックします。
クライアントセットアップ画面に戻ります。

■セットアップ資源の削除

- 1) ツールバーの「セットアップ資源の削除」をクリックするか、「操作」メニューから「セットアップ資源の削除」を選択します。
セットアップ資源の削除画面が表示されます。



- 2) 削除する資源識別名を選択し、[削除] をクリックします。
確認の画面が表示されます。



- 3) [はい] をクリックします。
資源が削除され、セットアップ資源の削除画面に戻ります。
続けてセットアップ資源を削除できます。
- 4) [閉じる] をクリックします。
クライアントセットアップ画面に戻ります。

■クライアントセットアップを終了する

- 1) 「ファイル」メニューから「終了」を選択します。
WizardConsole 画面に戻ります。

4.7 クライアントセットアップ動作環境

クライアントセットアップ機能の動作環境を設定します。

- 1) 「クライアントセットアップ動作環境」を選択します。クライアントセットアップ環境設定画面が表示されます。



- 2) 環境を設定します。

●ポート番号の設定

「ポート番号設定」をクリックします。
ポート番号設定画面が表示されます。



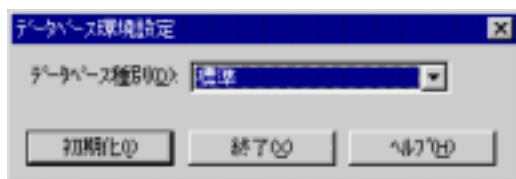
使用するポート番号を 1～65535 の範囲内で指定します。通常、ポート番号を変更する必要はありません。

変更を行った場合は、各クライアントのクライアントセットアップの動作環境でサーバで変更したものと同一のポート番号を設定する必要があります。また、変更を行った場合は、「コントロールパネル」の「サービス」で「Client Setup Server」サービスの再起動を行うか、システムを再起動してください。

「OK」をクリックします。

●データベース種別の設定

[データ環境設定] をクリックします。
データベース環境設定画面が表示されます。



使用するデータベース種別を選択します。ただし、当バージョンでサポートするデータベースは「標準（CSV 形式）」のみです。

[初期化] ボタンをクリックすると、データベース種別で指定されているデータを、クライアントセットアップサーバが使用できるように初期化します。

[終了] をクリックします。

- 3) [終了] をクリックします。
WizardConsole 画面に戻ります。

4.8 WizardConsole のアンインストール

WizardConsole 機能を削除する場合は、「コントロールパネル」の「アプリケーションの追加と削除」で行ってください。

次の順番で削除してください。

- ServerWizard クライアントセットアップ機能サーバ
- ServerWizard WizardConsole

- 1) コントロールパネルから「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリックします。
- 2) 「ServerWizard クライアントセットアップ機能サーバ」を選択し、[追加と削除] をクリックします。
確認のメッセージが表示されます。
- 3) [はい] をクリックします。
クライアントセットアップ機能が削除され、アプリケーションの追加と削除画面に戻ります。
- 4) 「ServerWizard WizardConsole」を選択し、[追加と削除] をクリックします。
確認のメッセージが表示されます。
- 5) [はい] をクリックします。
クライアントセットアップ機能が削除され、アプリケーションの追加と削除画面に戻ります。
- 6) [OK] をクリックします。
コントロールパネル画面に戻ります。

▼注意▼

クライアントセットアップがインストールされている場合は、「ServerWizard クライアントセットアップ機能サーバ」を先にアンインストールしてから、WizardConsole のアンインストールを行ってください。

第 5 章 ClientWizard

ClientWizard では、各クライアントコンピュータのセットアップを行います。

5.1 セットアップに必要な準備

ClientWizard を行う前に、次の準備が必要です。

5.1.1 サーバ側の準備

■クライアントコンピュータの情報を登録する

クライアントコンピュータの情報を登録するには次の 2 つの方法があります。
すでに ServerWizard でサーバのセットアップ、インストールが完了している場合は、WizardConsole で操作を行ってください。

- DesignMagic の「クライアントシステム設計」で行う。
- WizardConsole の「コンピュータの追加」を行い、「クライアント情報の追加／変更」でクライアント情報を設定する。

■クライアントへセットアップする資源の取り込み

DesignMagic のクライアントセットアップで定義したアプリケーションやファイルなどの資源をクライアントにインストールするには、サーバ上にアプリケーションやファイルを取り込んでおく必要があります。サーバ上にこれらの資源を取り込むには、WizardConsole の「クライアントセットアップ」で「セットアップ資源の取り込み」を行ってください。詳しくは『4.6.2 セットアップ資源を取り込む』を参照してください。

■クライアント導入フロッピーディスクを作成する

ClientWizard でセットアップを行うには、セットアップを行うクライアントコンピュータの情報が登録されたクライアント導入フロッピーディスクが必要です。クライアント導入フロッピーディスクは、WizardConsole の「クライアント導入フロッピーの作成」で作成します。詳しくは『4.4 クライアント導入フロッピーの作成』を参照してください。

5.1.2 クライアント側の準備

■OS のインストール

使用する OS がまだインストールされていない場合は、あらかじめ使用する OS をインストールしておいてください。

■ネットワーク環境の設定

- ・LAN カードを装着し、LAN ドライバをインストールします。
LAN カードの装着方法、LAN ドライバのインストール方法については、それぞれ添付のマニュアルを参照してください。
- ・「コントロールパネル」の「ネットワーク」で、Microsoft ネットワーククライアントサービスをインストール、セットアップしておきます。
- ・クライアントコンピュータに複数の LAN カードが装着されていた場合、サーバに正常に接続できない場合があります。1つの LAN カードのみに変更してください。

■TCP/IP プロトコルの設定

あらかじめセットアップを行うクライアントコンピュータにおいて、TCP/IP プロトコルを設定しておいてください。

IP アドレスの種別が「手動」に設定する場合も、「DHCP」に設定する場合も、TCP/IP を設定しておく必要があります。ただし、「DHCP」に設定した場合は、自動的に DHCP に設定しなおされます。

5.1.3 ネットワーク環境の準備

LAN ケーブルを接続し、サーバと接続できる状態にしておきます。
接続方法など、詳しくはご使用の各装置に添付のマニュアルを参照してください。

5.2 クライアントコンピュータのセットアップ

ClientWizard を起動する前に、起動中のアプリケーションを全て終了しておいてください。
WindowsNT4.0WS を使用している場合は、管理者アカウントでログインしてください。

- 1) セットアップを行うクライアントコンピュータに、クライアント導入フロッピーディスクをセットします。フロッピーは、書き込み可能な状態にしておいてください。
- 2) エクスプローラなどでフロッピーディスクドライブをクリックします。



- 3) 「CWizard」をダブルクリックします。
ClientWizard が起動します。



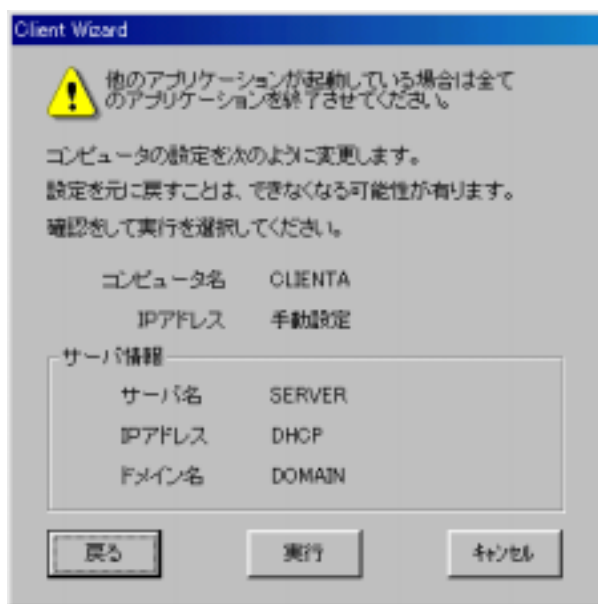
- 4) 「クライアントの登録」をクリックします。
コンピュータ選択画面が表示されます。



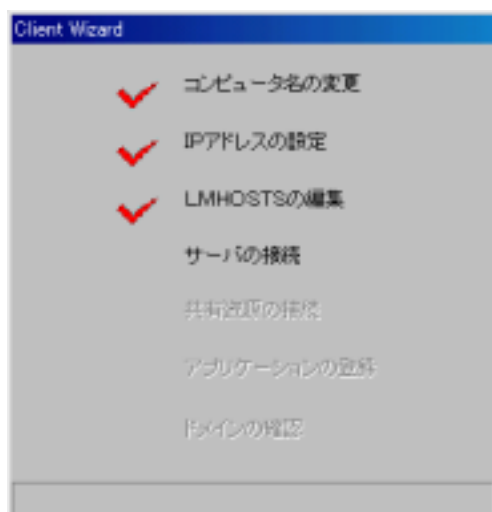
接続するサーバ情報が表示されます。
サーバ名、IP アドレス、ドメイン名は変更できません。

- 5) セットアップするコンピュータを選択します。
コンピュータの選択：[▼] をクリックし、コンピュータ名の一覧からセットアップするコンピュータ名を選択します。ご使用のコンピュータの OS と同じ OS が設定されているコンピュータ名のみ表示されます。
IP アドレス：IP アドレスの種別が表示されます。変更はできません。

- 6) 「次へ」をクリックします。
設定の確認画面が表示されます。



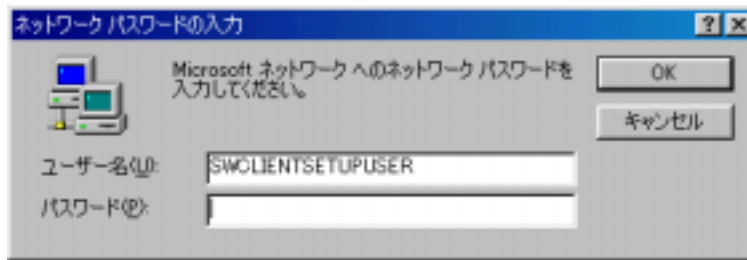
- 7) 「実行」をクリックします。
セットアップが開始されます。



セットアップが終了した項目にはチェックマークが付きます。

- 8) LMHOSTS の編集が終了すると、再起動のメッセージが表示される場合があります。
その場合は、フロッピーディスクを抜いて「OK」をクリックします。
再起動され、ログイン画面が表示されます。

9) Windows95/98 の場合



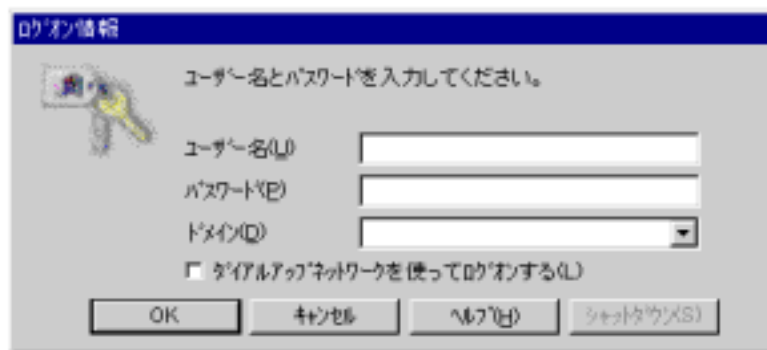
ユーザ名はデフォルトで表示されています。

ユーザ名を変更せず、パスワードを入力しないで [OK] をクリックします。

OnePoint

はじめてサーバにログインする場合、パスワードの確認画面が表示されますが、何も入力せずに [OK] をクリックしてください。

WindowsNT の場合



管理者用アカウントでログオンしてください。

以前に別のドメインに参加していた場合、そのドメイン名が表示されますが、「ドメイン」には、ご使用のコンピュータ名を入力してください。

引き続きセットアップの処理が行われます。

- 10) アプリケーションの登録が終了すると、途中再起動を行った場合は次の画面が表示されます。先程抜いたフロッピーディスクを再度セットして [OK] をクリックします。



11) Windows95/98 の場合

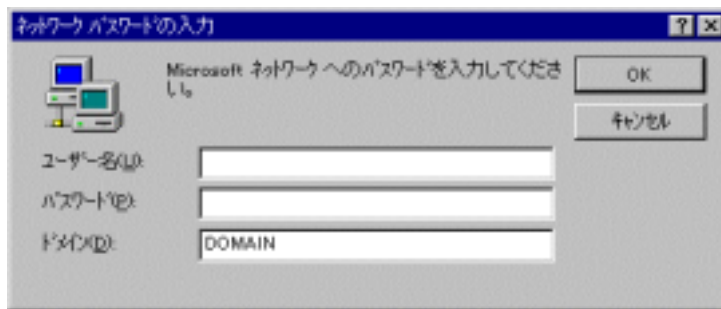
セットアップが終了すると、システムが再起動されます。

フロッピーディスクを抜いて [OK] をクリックします。

WindowsNT の場合

ドメインを変更する必要があります。変更要求の画面が表示されたら [OK] をクリックします。ネットワークパネルが表示されるのでドメイン名を指定どおり変更し、再起動してください。

再起動後、ログイン画面が表示されます。



- 12) 実際にログインするユーザ名、パスワードを入力して [OK] をクリックします。パスワードの確認画面（変更）が表示されます。

OnePoint

ユーザ名とパスワードはサーバの管理者に確認しておいてください。

- 13) パスワード、パスワード確認にパスワードを入力して [OK] をクリックします。ログイン画面が表示されます。
- 14) パスワードを入力して [OK] をクリックします。
OS の起動画面が表示されます。
クライアントセットアップの設定が行われていた場合は、サーバで設定したセットアップ指示に従い、アプリケーションやファイルがインストールされます。

▼注意▼

クライアントセットアップによるクライアントへの資源自動インストールは、ClientWizard 起動後の初回ログイン時に一度だけ行われます。ただし、初回ログイン時にセットアップ指示がない場合は、セットアップ指示が設定された後の最初のログイン時に一度だけ行われます。

自動インストール終了後、サーバ側でセットアップ指示の追加などを行った場合は、「スタート」の「プログラム」－【ServerWizard_クライアントセットアップ機能】－【クライアントセットアップ インストールコマンド】を起動してください。これにより、クライアントへのインストールを開始できます。

OnePoint

一度セットアップしたコンピュータ名は、クライアント導入ファイルから削除されます。
セットアップ後のクライアントコンピュータにおいて、OS を再インストールし、前回のセットアップ時と同じコンピュータ名でセットアップを行う場合は、WizardConsole で一旦コンピュータ名を削除し、新しくコンピュータを追加しなして、クライアント導入フロッピーディスクを作成し、セットアップを行ってください。

付録

付録 A こんなときは (Q&A)

Q. モデムを追加するには?

A. 次の手順で追加してください。

- 1) WindowsNT を起動し、管理者権限を持ったユーザアカウントでログオンします。
- 2) 「スタート」-「設定」-「コントロールパネル」をクリックします。
- 3) [モデム] アイコンをダブルクリックします。
新しいモデムのインストール画面が表示されます。
- 4) 「モデムを一覧から選択するので検出しない」をチェックし、[次へ] をクリックします。
- 5) 「製造元」からモデムメーカーを、「モデル」から該当するモデムを選択し、[次へ] をクリックします。

OnePoint

モデムにデバイスドライバが添付されている場合は A ドライブにセットして「ディスク使用」をクリックし、該当するモデムを選択します。また、一覧表にもモデム名が表示されず、モデムにもドライバが添付されていない場合は、「WindowsNT Server Version 4.0 Disc1」を CD-ROM ドライブにセットして、該当するモデムを選択します。

- 6) 「選択したポート」をクリックし、表示されている [COMn] をクリックして [次へ] をクリックします。
- 7) 所在地の設定を行い、[次へ] をクリックします。

国名	: 現在パソコンを使用している国を入力します (例: 日本)。
市外局番	: 現在パソコンを使用している場所の市外局番を入力します (例: 03)。
外線発信番号	: 外線を使用している場合、外線にかけるときに必要な番号を入力します (例: 0)。
ダイヤル方法	: 電話の契約がプッシュ回線の場合は「トーン」、ダイヤル回線の場合は「パルス」を選択します。
- 8) [完了] をクリックします。
- 9) [閉じる] をクリックします。

Q. プリンタを追加するには？

A. 次の手順で追加してください。

- 1) 「スタート」－「設定」－「プリンタ」をクリックします。
- 2) 「プリンタの追加」アイコンをダブルクリックします。
プリンタの追加ウィザード画面が表示されます。
- 3) 「このコンピュータ」を選択して、「次へ」をクリックします。
- 4) 「利用可能なポート」を選択して、「LPT:1」のチェックボックスをチェックして、「次へ」をクリックします（通常は LPT1 ですが、使用プリンタによっては別のポートを選択します）。
- 5) 「製造元」からプリンタメーカーを、「プリンタ」から該当するプリンタを選択して、「次へ」をクリックします。

OnePoint

プリンタにデバイスドライバが添付されている場合は A ドライブにセットして「ディスク使用」をクリックし、該当するプリンタを選択します。また、一覧表にもプリンタ名が表示されず、プリンタにもドライバが添付されていない場合は、「WindowsNT Server Version 4.0 Disc1」を CD-ROM ドライブにセットして、該当するプリンタを選択します。

- 6) 「プリンタ」でプリンタ名を入力し、「次へ」をクリックします。
すでに他のプリンタドライバがインストールされている場合は、Windows アプリケーションで選択したプリンタを通常使うかどうかを選択し、「次へ」をクリックします。
- 7) プリンタを共有しない場合は「共有しない」を選択、共有する場合は「共有する」を選択してから「共有名」を付けて「次へ」をクリックします。
- 8) テストページを印刷するかどうかを指定して、「完了」をクリックします。

●FMLBP シリーズ、FMPPR シリーズをお使いの場合

デバイスフォントの白色を使用した場合、印刷結果が画面と異なることがあります。白色で印刷する場合は、デバイスフォント以外で印刷してください。

●FMLBP225PS、FMLBP211PS をお使いの場合

- ・ドキュメント画面ボックス「ドキュメントのオプション」の「プリンタの機能」の「標準に戻す」ボタンをクリックしても、変更前の設定状態には戻りません。
- ・ドキュメント画面ボックス「ハーフトーンカラーの調整」で「明るさ」や「コントラスト」などを調整しても、印刷には反映されません。
- ・用紙の種類で「A4 横」のような「××横」の用紙では正しく印刷できません。
このようなデータを印刷する場合は、用紙の種類で「A4」印刷の向きを「横」のようにして印刷してください。

●富士通プリンタ増設カードに FUJITSU Printia XL シリーズプリンタおよび他社プリンタを接続する場合について

富士通プリンタ増設カードに FUJITSU Printia XL シリーズプリンタおよび他社プリンタを接続する場合は、REGEDT32.EXE コマンドを使って、レジストリの以下のキーの値を変更し、システムを再起動してください（この例ではプリンタが接続されているポートが"LPT4"とします）。

キー：¥HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥PARALLEL SETUP INFO¥LPT4

値：Escp：REG_BINARY：01 00 00 00

↑ここを 00 から 01 に変更

●任意の用紙サイズを設定する場合

富士通 FM シリーズ用シリアルプリンタでフォームを使用する場合、使用できるフォームのサイズはそれぞれのドライバによって以下の範囲となっています。この範囲外のものはありません。

用紙サイズの設定

プリンタの [ファイル] メニューから [サーバのプロパティ] をクリックし、[用紙] タブの [新しい用紙を作成する] チェックボタンをチェックして作成します。任意の用紙サイズを設定できます。

詳細については、WindowsNT のマニュアルおよびオンラインヘルプを参照してください。

幅：50～345.4mm（1.79～13.6 インチ）高さ：50～420.0mm（1.79～16.5 インチ）のドライバ
[136 桁プリンタ]

"FUJITSU FMPR 180"

"FUJITSU FMPR 180 (Color) "

"FUJITSU FMPR -353G2"

"FUJITSU FMPR -353A2"

"FUJITSU FMPR -361"

"FUJITSU FMPR -372"

"FUJITSU FMPR -671"

"FUJITSU FMPR -654"

"FUJITSU FMPR -359F1"

"FUJITSU FMPR -455"

"FUJITSU FMPR -456"

"FUJITSU FMPR -371A"

"FUJITSU FMPR -374"

"FUJITSU FMPR -366 (Monochrome) "

"FUJITSU FMPR -373 (Color) "

"FUJITSU FMPR -366 (Color) "

"FUJITSU FMLP -351"

"FUJITSU FMPR -373 (Monochrome) "

"FUJITSU FMPR -672"

幅：50～203.2mm（1.79～8 インチ）高さ：50～420.0mm（1.79～16.5 インチ）のドライバ
[80 桁プリンタ]

"FUJITSU FMPR -302G2"

"FUJITSU FMPR -302A2"

"FUJITSU FMPR -204B"

"FUJITSU FMPR -204W"

"FUJITSU FMPR -101W"

"FUJITSU FMPR -101B"

"FUJITSU FMPR -102G"

"FUJITSU FMPR -601"

"FUJITSU FMPR -303G"

"FUJITSU FMJP -101G"

"FUJITSU FMPR -221G"

幅：50～420.0mm（1.79～16.5 インチ）高さ：50～420.0mm（1.79～16.5 インチ）のドライバ

"FUJITSU FMPR -360"

"FUJITSU FMPR -360（Color）"

"FUJITSU FMJP -211"

幅：25.4～345.4mm（1～13.6 インチ）高さ：25.4～558.8mm（1～22 インチ）のドライバ
[ESC/P シーケンス]

"FUJITSU ESC/P"

"FUJITSU FMPR -375E"

"FUJITSU FMPR -371E"

"FUJITSU FMP -PR121G"

Q. 区画(パーティション)はどのように作成されますか？

A. 区画(パーティション)の作成方法には、手動／自動の2種類の方法があり、次のように作成されます。

●手動設定の場合

実際のサーバに接続されているハードディスクの容量が指定した容量より大きい場合は、指定した容量でシステム区画とアプリケーション区画が作成されます。残りの領域は未使用領域となります。

実際のサーバに接続されているハードディスクの容量が、指定した容量より小さい場合は、指定された容量でシステム区画を作成した後、残りをアプリケーション区画として作成します。ただし、指定した容量でシステム区画が作成できた場合は、残りがアプリケーション区画となります。また、残り未使用領域が1GB未満の場合、アプリケーション区画は作成されません。

●自動設定の場合

実際のサーバに接続されているハードディスクの容量によって、作成される区画の容量が異なります。

実際のサーバに接続されているハードディスクの容量が4096MBより小さい場合は、全領域がシステム区画となり、アプリケーション区画は作成されません。

実際のサーバに接続されているハードディスクの容量が4096MBより大きい場合は、4096MBのシステム区画を作成し、残りがアプリケーション区画となります。ただし、残り未使用領域が1GB未満の場合、アプリケーション区画は作成されません。

▼注意▼

- ・実際には、区画を管理するための領域があるため、指定された容量より若干少なくなることがあります。
- ・8GB よりも容量の大きなハードディスクを接続している場合でも、BIOS のジオメトリ変換によって、8GB より若干少ない領域の区画が作成されます。

Q. RAID を構築するときの注意点は？

A. 次の点に留意してください。

■ハード構成

- ・サポートする RAID カード枚数 1 枚
- ・RAID カードとして使用できる条件
本体マニュアルに記述してある所定のスロット位置に装着されていること
- ・ハードディスクの条件
 - (1) 本体内蔵のみ
 - (2) 必ず同形式及び同容量のハードディスクを使用すること
 - (3) RAID レベルにより設定できる台数は以下の通りです。

RAID レベル 0	— 2～8 台
RAID レベル 1	— 2 台
RAID レベル 5 (推奨)	— 3～8 台

※ただし、本体の最大搭載数を超えて設定しないでください。
本体の最大搭載数は本体マニュアルを参照してください。
 - (4) ホットスペア (スタンバイディスク)
なし／あり (1 台まで、RAID レベル 0 を除く)

▼注意▼

ホットスペアを「あり」に指定した場合は、実際に搭載するハードディスク台数は上記 (3) の設定台数+1 台としてください。

■アレイ構成

- ・フィジカルパック数 1
- ・システムドライブ数 1
- ・最大システムドライブ容量 1 TB
- ・ハードディスクのパック順
ハードディスクに設定された SCSI ID の小さい順で Channel 0 と Channel 1 を 交互にパックする。(2チャンネルの場合)
例 (2チャンネルの場合)

パック A-1	Channel 0 SCSI ID 0
パック A-2	Channel 1 SCSI ID 0
パック A-3	Channel 0 SCSI ID 1
パック A-4	Channel 1 SCSI ID 1
パック A-5	Channel 0 SCSI ID 2

ホットスワップを指定した場合は、ホットスワップのハードディスクは一番小さいチャンネル番号で SCSI-ID が最小のハードディスクとなります。
(通常は Channel 0 で SCSI ID 0 のハードディスク)

■ディスク台数

- ・設定した台数 (ホットスワップありの場合は+1 台) より実際に装着されている台数が少ない場合
ServerWizard はエラーとなり、セットアップは中断されます。
- ・設定した台数 (ホットスワップありの場合は+1 台) より実際に装着されている台数が多い場合
設定どおりになり、余ったディスクはスタンバイディスクとなります。また、後からフィジカルパックを追加することもできます。詳しくは SCSI アレイコントローラカードに添付の取扱説明書を参照してください。

Q. スーパーフロッピー形式の光磁気ディスクは使用できますか？

A. 以下の方法でフォーマットしてください。

SCSI カードなどに添付されているフォーマッタを使用して、光磁気ディスクをスーパーフロッピー形式でフォーマットした場合、WindowsNT で認識できないことがあります。
光磁気ディスクをスーパーフロッピー形式でフォーマットする場合には、光磁気ディスクユニット添付のデバイスドライバ内の「MO フォーマッタ」を使用してください。
詳細については、光磁気ディスクユニットの取扱説明書を参照してください。

付録 B クライアントセットアップ機能について

B-1 クライアントセットアップ機能とは

クライアントセットアップ機能は、サーバ上に取り込まれたアプリケーションやファイルなどの資源を、複数のクライアントコンピュータに自動的にインストールする機能です。

クライアントセットアップ機能を使用するためには、以下の流れで操作を行います。

▼注意▼

セットアップ資源情報の設計は、DesignMagic からのみ定義できます。システム導入後は、新たにクライアントコンピュータにインストールする資源の設計はできません。

1. セットアップ情報を定義する
DesignMagic の「クライアントセットアップ」で、クライアントコンピュータにインストールする資源の情報を設定します。
2. サーバに資源を取り込む
WizardConsole の「クライアントセットアップ」で、DesignMagic で定義したセットアップ資源をサーバに取り込みます。
3. クライアントコンピュータをセットアップする
クライアント導入フロッピーを使用して ClientWizard で、クライアントコンピュータをセットアップします。
4. クライアントコンピュータに資源をインストールする
クライアントコンピュータの次回ログイン時に、自動的にサーバに取り込まれている資源がクライアントコンピュータにインストールされます。

B-2 クライアントセットアップのインストール

クライアントセットアップ機能は、DesignMagic の「クライアントセットアップ」で「クライアントセットアップ機能を使用する」を選択すると、インストールされます。

B-3 クライアントに資源をインストールするための設計

クライアントに各種資源をインストールするには、セットアップ情報の設計を行う必要があります。セットアップ情報の設計は、DesignMagic の「クライアントセットアップ」で行います。セットアップ情報の設計は、DesignMagic でのみ設定できます。システム導入後は、新しくクライアントコンピュータにインストールする資源の追加設計はできません。

■資源の種類

クライアントには次の3種類の資源がインストールできます。

アプリケーション

複数のファイルで構成された資源で、SETUP コマンドなどのインストーラでインストールを行うアプリケーションソフトウェアです。アプリケーションでは、スクリプトを同時にインストールすることができます。これにより、自動インストールできない対話型のアプリケーションのインストールも、スクリプトを使用することで自動インストールが可能になります。スクリプトはアプリケーションごとに別途作成してください。なお、スクリプトの作成についてはB-5 留意事項の「■アプリケーションインストール用のスクリプト作成時の注意事項」を参照してください。

ファイル

SETUP コマンドを使わず、単純にコピーすることでインストールできる資源です。ディレクトリを指定することで、複数のファイルを一度にインストールすることもできます。

実行コマンド

クライアント側で実行するコマンドです。実際にクライアントへはインストールされず、コマンドの実行のみを行います。

B-4 クライアントコンピュータの追加／変更時

クライアントセットアップ機能で定義された資源は、DesignMagic または WizardConsole で指定したクライアントコンピュータに対してインストールされます。

WizardConsole の「コンピュータの追加／変更」を行った場合は、次の操作を行う必要があります。それぞれの操作について、詳細は『4.6 クライアントセットアップ』を参照してください。

■コンピュータの追加時

WizardConsole の「コンピュータの追加／変更」でコンピュータの追加を行った場合、追加したクライアントコンピュータに対してセットアップ資源のインストールを行う場合は、WizardConsole の「クライアントセットアップ」から、「セットアップ指示の追加」を行ってください。

■コンピュータの削除時

WizardConsole の「コンピュータの追加／変更」でコンピュータの削除を行った場合、削除したクライアントにインストール未完了資源がある場合は、WizardConsole の「クライアントセットアップ」から「セットアップ指示の削除」を行ってください。

▼注意▼

セットアップ指示には、複数のコンピュータへのセットアップ指示が登録されている場合があります。セットアップ指示の削除を行う場合は、削除対象外コンピュータへのセットアップがすべて完了してからセットアップ指示の削除を行ってください。

B-5 留意事項

■クライアントセットアップのアンインストール

クライアントセットアップ機能のアンインストールは、サーバ、クライアントともに、コントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」で行います。

●サーバ側

クライアントコンピュータへのインストール処理が行われていないことを確認してください。WizardConsole が起動されている場合は、終了してください。

- 1) コントロールパネルから「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリックします。
- 2) 「ServerWizard クライアントセットアップ機能サーバ」を選択し、[追加と削除] をクリックします。
指示に従って操作してください。
削除できなかったフォルダやファイルがあった場合は、[詳細] ボタンに従って操作を行ってください。

OnePoint

WizardConsole が起動されている状態でクライアントセットアップのアンインストールを実行した場合、アンインストールが終了しても、WizardConsole 画面には「クライアントセットアップ」と「クライアントセットアップ環境設定」の項目は表示されたままです。一度 WizardConsole を終了した後は表示されなくなります。

●クライアント側

クライアントコンピュータへのインストール処理が行われていないことを確認してください。

- 1) コントロールパネルから「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリックします。
- 2) 「ServerWizard クライアントセットアップ機能クライアント」を選択し、[追加と削除] をクリックします。
指示に従って操作してください。
削除できなかったフォルダやファイルがあった場合は、[詳細] ボタンに従って操作を行ってください。

■同時インストールできる台数

クライアントセットアップでは、同時にインストールできるクライアントコンピュータの台数は 15 台です。

15 台以上インストールする場合は、一度にインストールするクライアント台数を 15 台単位で行ってください。15 台以上の同時インストールを行った場合、タイムアウトのエラーが表示される場合があります。その場合は、「クライアントコンピュータへのインストールする失敗時の対応」を参照してください。

■クライアントコンピュータへのインストール失敗時の対応

クライアントコンピュータへのインストール中にタイムアウトが発生した場合

サーバのサービスで"Client Setup Server"が開始されているか確認してください。

"Client Setup Server"が開始されている場合、サーバの「クライアントセットアップ」を起動し、セットアップ指示詳細情報で対象クライアントコンピュータのセットアップ結果を確認してください。

セットアップ結果が異常の場合は、「セットアップ指示の追加」から対象資源とクライアント名を指定して、指示の追加を行ってください。

セットアップ結果が未完了の場合は、しばらく待ってからクライアントコンピュータで再度ログイン処理を行うか、「スタート」－「プログラム」から「ServerWizard_クライアントセットアップ機能」－「クライアントセットアップ インストールコマンド」を実行してください。

クライアントコンピュータへのインストール中にタイムアウト以外のエラーが発生した場合

サーバの「クライアントセットアップ」を起動し、セットアップ指示詳細情報で対象クライアントコンピュータのセットアップ結果を確認してください。

セットアップ結果が異常の場合は、「セットアップ指示の追加」から対象資源とクライアント名を指定して、指示の追加を行ってください。

セットアップ結果が実施中または未完了の場合は、しばらく待ってからクライアントコンピュータで再度ログイン処理を行うか、「スタート」－「プログラム」から「ServerWizard_クライアントセットアップ機能」－「クライアントセットアップ インストールコマンド」を実行してください。

■クライアントセットアップ機能でインストールしたアプリケーションの削除

クライアントセットアップ機能でインストールしたアプリケーションを削除する際、「コントロールパネル」から「アプリケーションの追加と削除」で行うとエラーになる場合があります。この場合は、アプリケーションが表示するメッセージに従ってアンインストールを行ってください。

■クライアントセットアップ機能サーバインストーラのエラーについて

クライアントセットアップ機能サーバインストーラが出力するエラーメッセージログファイル（swumsgsv.log）に以下のメッセージが出力されていた場合、サーバのインストールに関しては正常に終了していますので、それぞれの対応を行ってください。

メッセージ

SWSV-0019 クライアント用環境定義ファイルが作成できません。

対処方法

クライアントセットアップ機能クライアントのインストール媒体（サーバ上の C:¥SVWIZARD¥Setup¥AFRS¥Client）に格納されているクライアント用環境定義のサンプルファイル（afrsclnt.sam）の内容を編集し、ファイル名を " afrsclnt.inf "に変更し、サーバ上の C:¥SVWIZARD¥Setup¥AFRS¥Client に保存します。

■アプリケーションインストール用のスクリプト作成時の注意事項

クライアントセットアップ機能で使用するアプリケーションインストール用スクリプトは、以下の手順で作成してください。なお、スクリプト作成を簡単にするためには、アプリケーションをインストールするマシンと同一環境でスクリプト採取の実施を推奨します。

- 1) クライアントコンピュータへインストールするアプリケーションのインストールコマンドを起動します。
- 2) 上記インストールコマンドの初期画面が表示されたら、**Windows** 上で動作する自動化ツール(注 1)を使用し、インストール操作のイベント採取を開始します。
- 3) インストール処理が終了したら、自動化ツールのイベント採取を終了します。
- 4) 採取したスクリプトを、配付先のクライアントの環境に合わせ編集(注 2)し、必要に応じてコンパイルします。なお、コンパイルが必要かどうかは使用する自動化ツールのマニュアルを参照してください。
- 5) インストールする製品の機能上、システムに対してリブートを要求してくる場合はリブートを実行せずにインストールが終了するようにスクリプトを採取してください。

注 1)

Windows 上で動作する自動化ツールとは、Windows 上で利用者が行った操作を、ファイルにスクリプト形式で格納し、そのスクリプトを実行して、操作を再現するツールです。

例) 米国ラショナルソフトウェア社の Visual Test

注 2)

採取したスクリプトはイベント採取したマシンに密着したものになっているため、複数のマシンで共通に使用するためには下記の点をカスタイズする必要があります。

①不要関数の削除

イベント採取で不要なイベントを採取した場合には不要な処理や関数を削除します。

②画面待ち合わせ

採取したスクリプトを実行する際、実行マシンの性能により処理速度が異なるためスクリプト内で時間を指定して処理の待ち合わせを行うと動作が不安定になります。時間指定で待ち合わせている個所は、待ち合わせ時間を長くするか、次に表示される画面で待ち合わせを行うようにカスタマイズします。

③画面の切り分け

インストール時に表示される画面が局面によって異なる場合は、同一ループ内で複数の画面の待ち合わせを行い、どちらの画面が表示されても対処できるようにカスタマイズします。

付録 C 添付アプリケーションのインストール

ServerWizard には、以下のアプリケーションが収められています。

アプリケーション名	概要	格納フォルダ
DSNAP V1.0 L10	障害調査資料の取得ツール	¥DSNAP
PROBEPRO V1.0 L11	トラブル解決支援ツール	¥PROBEPRO
PowerMANagement for Windows 電源制御エージェント V1.1 L10	リモートからサーバの電源 制御を行うツール	¥PMAN¥AGENT
SystemWalker/LiveHelp® Client V4.0	リモートからサーバを操作 するツール	¥LIVEHELP
FM Advisor V2.10 L10	動作環境取得ツール	¥FMADV

ServerWizard でサーバをセットアップ、インストールする際に同時にインストールすることもできますが、インストール後に ServerWizard の CD-ROM から必要なアプリケーションをインストールできます。ただし、Power MANagement for Windows は同時インストールはできません。ご使用になる場合は、サーバインストール後 ServerWizard の CD-ROM からインストールしてください。

アプリケーションの概要と、インストール方法について説明します。なお、アプリケーションは WindowsNT 用です。詳細については各アプリケーションの"README.TXT"を参照してください。

C-1 DSNAP

DSNAP は、障害調査用資料を一括して採取するコマンドラインユーティリティです。WindowsNT システムファイルの構成情報や主要なレジストリの設定、イベントログをコマンドライン操作で容易に採取できます。

DSNAP は、お客様の WindowsNT システムに問題が発生した際に、弊社サポート技術者がお客様のシステム・ソフトウェア構成および設定状況を正確に把握し、調査を円滑に進めるために使用します。メモリダンプと共に弊社サポート技術者にお渡しください。

インストール方法

¥DSNAP には、以下のファイルが含まれています。
ハードディスク内のフォルダに複写してください。

DSNAP.EXE
README.TXT

C-2 PROBEPRO

PROBEPRO は、お客様の WindowsNT システムでトラブルが発生した際に、弊社サポート技術者がトラブル発生前後のシステム環境の変更点や特異点を客観的に特定し、トラブル解決をより迅速に行うことを目的としたトラブル解決支援プログラムです。

PROBEPRO は、WindowsNT システムのトラブル発生に備えて、システム稼動中に、システム情報（モジュール情報、レジストリ情報、パフォーマンス情報）を採取します。

インストール方法

管理者権限を持つアカウントでサーバにログオンします。

CD-ROM ドライブに ServerWizard の CD-ROM をセットします。

「スタート」をクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
ファイル名を指定して実行の画面が表示されます。

「名前」に以下のように入力し、[OK] をクリックします。
(CD-ROM ドライブを D に設定している場合)
D:¥PROBEPRO¥SETUP.EXE

インストーラが起動します。

画面のメッセージに従ってインストールを行ってください。

インストール終了後、システムを再起動します。

C-3 Power MANagement for Windows 電源制御エージェント

コンソール側のソフトウェア（電源制御）から Wakeup On LAN 対応機のエージェントの電源を投入および切断（自動シャットダウン）します。

インストール方法

- 1) 管理者権限を持つアカウントでサーバにログオンします。
- 2) CD-ROM ドライブに ServerWizard の CD-ROM をセットします。
- 3) 「スタート」をクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
ファイル名を指定して実行の画面が表示されます。
- 4) 「名前」に以下のように入力し、[OK] をクリックします。
(CD-ROM ドライブを D に設定している場合)
D: ¥PMAN¥AGENT¥SETUP.EXE
- 5) インストーラが起動します。
画面のメッセージに従ってインストールを行ってください。
- 6) インストール終了後、システムを再起動します。

C-4 LiveHelp

System Walker／LiveHELP®Client V4.0(以下 LiveHelp と略します)は、離れた場所に設置された WindowsNT サーバをリモート操作するためのソフトウェアです。LiveHelp を使うことにより、サーバの管理者は自席に居ながら、離れた場所に設置された WindowsNT サーバを自由に操作できます。

操作など、詳しくは「付録 C System Walker／LiveHELP®Client V4.0」を参照してください。

インストール方法

- 1) 管理者権限を持つアカウントでサーバにログオンします。
- 2) CD-ROM ドライブに ServerWizard の CD-ROM をセットします。
- 3) 「スタート」をクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
ファイル名を指定して実行の画面が表示されます。
- 4) 「名前」に以下のように入力し、[OK] をクリックします。
(CD-ROM ドライブを D に設定している場合)
D:\LIVEHELP\INSTALL または D:\LIVEHELP\INSTALL /admin
- 5) インストーラが起動します。
画面のメッセージに従ってインストールを行ってください。
- 6) インストール終了後、システムを再起動します。

C-5 FM Advisor

FM Advisor は、お使いのコンピュータの動作環境を調査し、アドバイスすべき情報がないかをチェックするアプリケーションです。また、コンピュータの動作環境取得ツールとしてもお使いいただくことができ、これらの情報を利用して、問題の解決に役立てることができます。

インストール方法

- 1) 管理者権限を持つアカウントでサーバにログオンします。
 - 2) CD-ROM ドライブに ServerWizard の CD-ROM をセットします。
 - 3) 「スタート」をクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
ファイル名を指定して実行の画面が表示されます。
 - 4) 「名前」に以下のように入力し、[OK] をクリックします。
(CD-ROM ドライブを D に設定している場合)
D:\FMADV\SETUP.EXE
 - 5) インストーラが起動します。
画面のメッセージに従ってインストールを行ってください。
- インストール終了後、システムを再起動します。

付録 D SystemWalker/LiveHelp® Client V4.0

ServerWizard では、サーバに LiveHelp Client ソフトウェアがインストールされますので、サーバをリモート操作する側のパソコンに、LiveHelp Expert ソフトウェア*¹ または SystemWalker/CentricMGR*²を購入してインストールする必要があります。

D-1 操作概要

LiveHelp では、リモート操作されるサーバをクライアント(Client)と呼びます。サーバをリモート操作する人をエキスパート(Expert)と呼びます。クライアントとエキスパートが通信している状態をセッションと呼びます。



【Client】プログラムの起動

操作対象のサーバで【Client】プログラムを起動します。【Client セットアップ】プログラムで【Client】プログラムを WindowsNT のサービスとして自動起動するように設定すると、WindowsNT へのログオン前からリモート操作が行えます。【Expert】プログラムとの通信方式も【Client セットアップ】プログラムで選択します。



【Expert】プログラムの起動

リモート操作しようとするエキスパートは、LiveHelp の【Expert】アイコンをダブルクリックして、【Expert】プログラムを起動します。エキスパートは、次に示す、【Expert】ツールバーを使ってセッションを管理します。



サーバへの接続

エキスパートは、【セッションへの参加】ボタンをクリックします。エキスパートは、クライアントを選択してサーバに接続します。これでセッションが始まります。



画面受信、



リモート操作

セッションが始まるとすぐに、これらのボタンが自動的にクリックされ、エキスパートはサーバの画面内容を見たり、サーバをリモート操作することができます。

セッション中はツールバーやメニューコマンドを使って LiveHelp のさまざまな機能を利用

きます。



画面を全体に表示

画面を全体に表示すると、操作が楽になります。この場合、ツールバーは画面にフロート化されて常に他の画面より手前に表示されます。



特殊キーの送信

〔Client〕プログラムを WindowsNT のサービスとして自動起動するように設定すると、ここで、〔特殊キーの送信〕ボタンをクリックし、〔Ctrl+Alt+Del〕キーを送信、WindowsNT へのログオン操作が行えます。

〔特殊キーの送信〕ボタンでは、〔Ctrl+Alt+Del〕、〔Ctrl+Esc〕、〔Print Screen〕、〔Alt+Print Screen〕キーをサーバに送信します。〔Ctrl+Alt+Del〕キーを送信すれば、サーバへリモートログイン、ログアウト、シャットダウンもできます。



クリップボード受信

サーバのクリップボードの内容は、〔クリップボード受信〕ボタンをクリックし、エキスパートのパソコンにコピーできます。



ファイル転送

複数のファイルをエキスパートのパソコンとサーバの間で一括転送。問題解析情報の取得やシステム修復が簡単にできます。



Client の終了

サポートが終了したら、〔Client の終了〕ボタンをクリックして、動作中の LiveHelp Client を終了することができます。

▼注意▼

サーバをリモート操作する場合、LiveHelp Client を終了すると〔Client〕プログラムを WindowsNT のサービスとして自動起動するように設定していない限り、再度接続することができなくなります。



Expert の終了

すべてのサポートが終了したら、〔Expert の終了〕ボタンをクリックして、LiveHelp Expert を終了します。

▼注意▼

〔Client の終了〕ボタンをクリックせずに LiveHelp Expert を終了すると、LiveHelp Client はサーバで動作を続け、接続待ちの状態になります。

D-2 その他の機能

LiveHelp には前述の操作概要で説明した機能のほか、次のような機能を備えています。

複数人のエキスパートによるリモート操作

サーバの画面やマウスの動きを、複数人のエキスパートがリアルタイムで受信し、同時に状況を把握できます。また、複数人のエキスパートが交代で、自分のキーボードとマウスでサーバを操作、非定型的な操作も自由に行えます。

接続のパスワード

LiveHelp Client の起動時にパスワードを設定できます。この場合、サポート部門の専門家がサーバへ接続する時に同じパスワードの入力が必要になります。[Client] プログラムを WindowsNT のサービスとして自動起動するように設定してあれば、この後、WindowsNT へのログオンを行うことになります。

エンドユーザのサポート

LiveHelp Client ソフトウェア*³をエンドユーザのパソコンにインストールすると、サーバのリモート操作と同様に、同じ LiveHelp Expert を使って、エンドユーザサポートのためにパソコンをリモート操作できます。

*¹ 製品名称: SystemWalker/LiveHelp Expert V4.0、製品型名: B2884972

*² 製品名称:

SystemWalker/CentricMGR EE V4.0、製品型名: B293C4490

SystemWalker/CentricMGR SE V4.0、製品型名: B293C1514

SystemWalker/CentricMGR WE 1 サーバ 10 クライアントライセンス付き V4.0、製品型名: B293C4470

*³ 製品名称: SystemWalker/LiveHelp Client V4.0、製品型名: B2884962

GRANPOWER5000シリーズ[®]
ServerWizard V1.0ソフトウェアガイド
B1FH-4561-01-00
発行日 1998年10月
発行責任 富士通株式会社
Printed in Japan

- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。
- 落丁、乱丁本はお取り替えいたします。